

嘉麻市教育委員会 点検・評価報告書

(平成26年度事業分)



碓井琴平公園（織田廣喜美術館横）

平成27年9月
嘉麻市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条及び嘉麻市教育基本条例第 7 条の規定に基づき、平成 26 年度の教育委員会の点検及び評価を行いましたことを報告します。

嘉麻市教育委員会委員名簿

平成 27 年 9 月現在

職 名	氏 名	任 期
委 員 長	豊福 眸子	平成 26 年 7 月 4 日～平成 30 年 7 月 3 日
委員長職務代理者	佐竹 正利	平成 25 年 7 月 4 日～平成 29 年 7 月 3 日
委 員	辻田 喜美	平成 24 年 8 月 29 日～平成 28 年 8 月 28 日
委 員	犬丸 隆行	平成 27 年 7 月 4 日～平成 31 年 7 月 3 日
教 育 長	木本 寛昭	平成 26 年 11 月 9 日～平成 30 年 11 月 8 日

目次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価する対象	1
(4) 点検・評価の方法	1
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	2
「第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度）」	
2. 教育委員会の取組	3
(1) 平成26年度教育委員会実施状況	3
(2) 平成26年度教育委員会の会議における主な議案	4
(3) 平成26年度教育委員会の会議における協議	5
(4) 平成26年度教育委員会の会議における報告	5
3. 各種学校調査の結果	7
4. 事業別評価結果	9
○重要課題1 少人数指導等による学力向上	13
○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	17
○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	34
○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	48
○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進	61
○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進	67
○重要課題7 市民文化の創造	71
5. 全体評価結果	79
《資料》	82
・ 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	83
・ 平成27年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿	85

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正及び嘉麻市教育基本条例の制定により、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要がある、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに、目的達成度の観点から自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育委員や現場教員・事務局職員等ではない人で、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、議会、PTA連合会、社会教育委員、公民館運営審議会、図書館協議会、織田廣喜美術館運営協議会、スポーツ推進委員、文化財保護審議会より推薦を頂いた方に依頼し評価していただきました。

（点検・評価の流れ）

- ① 教育委員会事務局（担当課）においてその所管する事務事業等を自己評価
- ② 自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員を設置し、自己評価に対しての評価
- ③ 教育委員会は評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価
- ④ 議会へ報告
- ⑤ 議会報告後、速やかにホームページ等で一般公表

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに4段階【A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要】で評価し、評価の高い事業については、引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、嘉麻市教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例(抜粋)

(基本理念)

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行わなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、嘉麻市における教育振興のための施策に関し、基本的な事項を定めた「第2次教育アクションプラン」を策定しました。

本市教育委員会は、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野について、7つの教育施策を柱とし、その実現に向けて施策を推進しました。

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

今回の点検・評価では、この7つの施策に基づく事業を対象とし点検・評価しました。

* 第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度 嘉麻市教育振興基本計画）は以下のホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市教育アクションプラン」

<http://www.city.kama.lg.jp> ・ ・ ・ 嘉麻を知る（トピックス）

2. 教育委員会の取組

(1) 平成26年度教育委員会実施状況

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、また、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。教育委員会は嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき年次計画で定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

◆平成26年度教育委員会開催実績

・ 定例会	12回		
・ 臨時会	5回	計	17回

◆平成26年度嘉麻市教育委員会学校訪問の実施状況

○定例学校訪問（2校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について協議及び所要の指導・支援を行うことにより学校力を向上させる取組みです。

実施日： 平成26年11月18日（金） 学校名： 嘉 穂 中学校
平成26年11月26日（水） 学校名： 嘉 穂 小学校

○授業改善型学校訪問（1校）

筑豊教育事務所が、各学校の人的管理及び運営管理の実情をもとに、授業公開を通して、学力向上に向けた取組みの指導・支援を行います。

実施日： 平成26年12月1日（月）～ 平成26年12月5日（金）
学校名： 稲築西 小学校

○授業力向上型学校訪問（2校）

筑豊教育事務所が、学校及び地域のミドルリーダー（中核教員）としての人材育成を視野に、教職経験5～10年程度の教諭の授業づくりに関するスキルアップを図る指導・支援を行います。

実施日： 平成26年 9月 2日（火）・ 3日（水）、
10月16日（木）・20日（月）・23日（木）
学校名： 稲 築 中学校

実施日： 平成26年 6月16日（月）、
10月28日（火）・31日（金）、
11月11日（火）・14日（金）
学校名： 上山田 小学校

○研究指定・委嘱校研究発表会（４校）

嘉麻市教育委員会が学校教育の充実と発展を目指して取り組む学校を指定委嘱し、学校教育の充実振興に寄与する取組みです。

実施日：	平成２６年１１月 ７日（金）	学校名：	稲 築 中学校
	平成２６年１１月１０日（月）		下山田 小学校
	平成２６年１１月１４日（金）		熊ヶ畑 小学校
	平成２６年１１月１９日（水）		稲築西 小学校

(2) 平成２６年度教育委員会の会議における主な議案

番号	議 案	開催日
1	嘉麻市立稲築中学校窓ガラス等破損事件に係る告訴の提起について	5/7
2	嘉麻市教育委員会事務局組織規則等の一部を改正する規則について	5/27
3	嘉麻市立嘉穂中学校通学自動車運行規則の全部改正について	6/3
4	嘉麻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則について	6/3
5	嘉麻市立稲築西小学校通学対策費補助金交付規則の一部を改正する規則について	6/3
6	嘉麻市学校評議員の委嘱について	6/3
7	嘉麻市学校関係者評価委員の委嘱について	6/3
8	嘉麻市教育委員会教育委員長の選任について	7/1
9	嘉麻市教育委員会教育委員長職務代理者の選任について	7/1
10	平成２７年度使用小学校教科用図書の採択について	8/5
11	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（平成２５年度事業分）について	8/26
12	嘉麻市教育委員会教育長の任命について（残任期間）	9/5
13	嘉麻市教育委員会教育長の任命について	9/5
14	嘉麻市スポーツ推進計画実施計画策定について（諮問）	10/7
15	嘉麻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則について	1/6
16	嘉麻市教育委員会会議規則等の一部を改正する規則について	3/25
17	嘉麻市教育委員会事務決裁規則の一部を改正する規則について	3/25
18	嘉麻市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の制定について	3/25
19	嘉麻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則を廃止する規則について	3/25
20	嘉麻市立学校施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	3/25

(3) 平成26年度教育委員会の会議における協議

番号	協 議	開催日
1	「2014年 非核と平和のつどい」後援依頼について	9/5

(4) 平成26年度教育委員会の会議における報告

番号	報 告	開催日
1	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の臨時代理について	4/1
2	嘉麻市下山田小学校白馬ホール条例施行規則の一部を改正する規則の臨時代理について	4/1
3	嘉麻市山田生涯学習館条例施行規則の一部を改正する規則の臨時代理について	4/1
4	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	4/1
5	嘉麻市奨学資金条例施行規則の一部を改正する規則の臨時代理について	5/7
6	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
7	嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の一部を改正する告示について	5/7
8	嘉麻市学校給食物資選定委員会設置規程の一部を改正する訓令について	5/7
9	嘉麻市スポーツ推進計画策定について	5/7
10	平成25年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/7
11	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	5/7
12	嘉麻市社会教育委員の委嘱に関する臨時代理について	6/3
13	嘉麻市文化財保護審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/3
14	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/3
15	嘉麻市特別支援教育就学奨励費交付認定規程の一部を改正する告示について	6/3
16	嘉麻市文化活動及びスポーツ大会全国大会等出場報奨金交付規程の制定について	6/3
17	嘉麻市教育振興基本計画調整会議設置要綱の一部を改正する要綱について	6/3
18	平成26年6月議会上程議案等について	6/3
19	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/3
20	嘉麻市立学校閉校記念事業補助金交付規程の廃止について	7/1
21	嘉麻市就学援助費交付認定規程の一部を改正する告示について	7/1
22	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	7/1
23	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	7/1
24	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（平成25年度事業分）について	8/5

25	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/5
26	平成26年9月議会上程議案について	9/2
27	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/2
28	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	10/7
29	嘉麻市教育委員会事務委任規則等の一部を改正する規則の臨時代理について	10/7
30	嘉麻市学校給食物資選定委員会設置規程及び嘉麻市子ども読書活動推進計画策定委員会設置規程の一部を改正する訓令について	10/7
31	学校提案型学力向上事業補助金交付要綱等の一部を改正する要綱について	10/7
32	嘉穂地区統合対象小学校閉校記念碑設置補助金交付要綱及び嘉麻市特別支援教育連携協議会等設置要綱を廃止する要綱について	10/7
33	嘉麻市嘉穂小学校通学安心安全協議会設置要綱について	10/7
34	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/7
35	第3次嘉麻市教育アクションプラン概要（案）について	11/4
36	情報公開・個人情報保護審査会への諮問に関する臨時代理について	11/4
37	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/4
38	平成26年12月議会上程議案について	12/1
39	平成26年度全国学力・学習状況調査結果について	12/1
40	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/1
41	嘉麻市スポーツ推進計画実施計画（答申）について	1/6
42	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/6
43	第3次嘉麻市教育アクションプラン（案）について	2/3
44	嘉麻市学校給食運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	2/3
45	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/3
46	平成27年3月議会上程議案について	3/3
47	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/3
48	嘉麻市中学生海外派遣事業実施規程の一部を改正する告示について	3/25
49	嘉麻市教育委員会教育長の事務委任等に関する規程の一部を改正する訓令について	3/25
50	嘉麻市特別教員規程の一部を改正する訓令について	3/25
51	嘉麻市プロジェクトK事業推進補助金交付規程の制定について	3/25
52	嘉麻市文化活動及びスポーツ大会全国大会等出場報奨金交付規程の一部を改正する告示について	3/25
53	平成27年度教職員の人事（内示）について	3/25

3. 各種学校調査の結果

まず、嘉麻市内各小・中学校における、少人数指導特別教員、特別支援介助員・学級支援員等の配置状況をまとめました。平成25年度と比べ、少人数指導特別教員の配置については1名増員、特別支援学級支援員、介助員及び特別支援教育補助員は2名増員、この増員は、市内各学校のニーズに対応した結果です。このように、児童生徒の実態に応じて、学習支援の環境の充実と個に応じた適切な支援を図っています。

○小中学校（全13校）における、特別支援介助員等の配置数

NO	点検・評価項目	内 容	H25	H26
1	少人数指導特別教員の配置	少人数授業の指導を行うために市費で雇用	25名	26名
2	特別支援学級介助員・特別支援学級支援員の配置	肢体不自由な児童生徒の介助や特別支援学級に在籍する児童生徒の支援を行うために市費で雇用	16名	16名
3	特別支援教育補助教員の配置	普通学級に在籍している特別支援の必要な児童生徒の指導等を行うために市費で雇用	15名	17名

次に示すのは、各小・中学校で行われた、教育課程実施状況及び教育課程編成状況調査結果（No.1～No.4）全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（No.5～No.9）を集計し、学校の取組、児童生徒の学習状況等について、平成25年度から平成26年度を併記して比較したものです。

各小・中学校の教育課程実施状況等の結果（No.1～No.4）は、小学校では、ほとんどの学校が「基礎基本の定着」を図る学習を位置付けています。また、学力未定着の児童に対する「補充学習」については、全ての学校で取組みを進めています。さらに、昨年度に引き続き「発展学習」においても、全小学校で実施している結果となっており、基礎・基本の定着によって身についた学力を、さらに活用する内容の学習が実施できてきているものと考えます。そして、「きめ細かな指導の実施」における分割授業の学校数は、山田地区の小規模校を除く、全ての小学校で実施されています。中学校でも、小学校の取組みと同様に、項目に示す内容が確実に実施されています。

次に、全国学力・学習状況調査における児童と質問紙の結果（No.5～No.9）では、食習慣の安定は、中学校では昨年度より改善されてきているものの、小学校では、数値が下降しており、今後も継続した食に関する指導や保護者啓発が必要です。また、自己肯定感については、小・中学校ともに減少しており、継続した「わかる、できる授業」の取組みが必要です。しかし、家庭学習の習慣化は改善が図られており、各学校の取組みの成果が現れてきました。そして、近年の児童生徒を取り巻く状況が大きく変化している中、携帯電話・スマートフォンの所持率及び使用時間が急増するとともに、活字離れの傾向も強く、平日に読書を全くしない児童生徒の割合も増えてきています。このことについては、新たな教育指導の充実を図って行くことが急務です。

以上のような調査結果から、学習支援環境充実のための人的配置の継続及び効果的な活用と児童生徒に実態に応じたきめ細かな指導を図っていくことが肝要であると考えます。

○小学校 8校 *学校・児童質問紙から ()は平成26年度の国・県の平均値
(平成25年度の数値は、統合前による12校の平均値である。)

NO	点検・評価項目	内 容	H25	H26
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	11校	7校
2	補充学習の指導	教育課程内への位置づけを行っている学校	10校	8校
3	発展学習の指導	教科学習の時間に発展的な学習を行っている学校	12校	8校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	11校	8校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	6校	7校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	11校	7校
5	食習慣	朝食を毎日食べている児童 (国96.0%、県94.1%)	93.3%	91.7%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う児童 (国76.1%、県75.0%)	69.3%	68.1%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている児童 (国96.5%、県95.6%)	92.7%	93.7%
8	携帯電話等の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている児童 (国46.1%、県49.1%)	51.2%	56.8%
9	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない児童 (国19.3%、県20.4%)	21.9%	28.2%

○中学校 5校 ()は平成26年度の国・県の平均値

NO	点検・評価項目	内 容	H25	H26
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	4校	4校
2	補充学習の指導	教育課程内への位置づけを行っている学校	5校	5校
3	発展学習の指導	教科学習の時間に発展的な学習を行っている学校	5校	5校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	5校	5校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	5校	3校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	5校	5校
5	食習慣	朝食を毎日食べている生徒 (国93.8%、県92.8%)	86.9%	89.0%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う生徒 (国66.4%、県64.4%)	68.5%	63.2%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている生徒 (国94.1%、県92.0%)	85.4%	86.1%
8	携帯電話等の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている生徒 (国76.5%、県76.7%)	69.3%	76.8%
9	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない生徒 (国34.3%、県37.3%)	34.2%	39.7%

4. 事業別評価結果

○重要課題1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)確かな学力向上のための取組みの推進	1	少人数指導推進事業	○			
	2	学校提案型学力向上事業		○		
	3	研究指定校補助事業	○			
	4	学力検証事業		○		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)個性や能力を伸ばす教育の充実	5	特別支援教育総合推進事業	○			
	6	補助教員配置事業		○		
(2)社会の変化に対応する教育の充実	7	英語コミュニケーション能力の育成事業		○		
	8	情報教育推進事業	○			
	9	情報教育施設整備事業	○			
(3)信頼される教員の確保と研修の充実	10	嘉麻市教育センター研修推進事業		○		
	11	教職員人事配置事業		○		
(4)安心して学べる学校づくりの推進	12	学校防犯体制整備事業	○			
	13	通学対策事業	○			
	14	学校施設維持管理事業	○			
	15	大隈城山校維持管理事業	○			
(5)嘉穂小学校施設整備の推進	16	嘉穂小学校開校準備審議会運営事業	事業完了 (H25)			
	17	嘉穂小学校建設事業	事業完了 (H25)			
(6)地域に開かれた学校づくりの推進	18	学校関係者評価事業	○			
	19	学校開放事務事業	○			
(7)小中連携教育への取組	20	小中連携・一貫教育研究事業		○		
(8)教育の機会均等の促進	21	就学援助事業	○			
	22	奨学金事業		○		
	23	幼稚園就園奨励費支給事務事業	○			

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)道徳性と自立心を養う心の教育の充実	24	道徳教育推進事業		○		
	25	キャリア教育推進事業	○			
	26	ボランティア活動推進事業		○		
(2)健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	27	学校保健事業	○			
	28	学校給食運営事業	○			
	29	学校給食費算定及び収納事業		○		
(3)家庭・地域・学校における読書活動推進	30	読書活動推進事業	○			
(4)いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	31	適応指導教室(れすとぴあ)推進事業	○			
	32	教育相談推進事業	○			
	33	学校支援相談員(旧:ひきこもり訪問指導員)配置事業	○			
(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	34	地域教育資源活用事業		○		
	35	学社連携融合事業		○		
	36	家庭教育支援事業	○			
	37	青少年健全育成事業		○		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	38	社会教育関係団体等育成事業		○		
	39	社会教育関係団体活性化補助事業		○		
(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	40	社会教育施設整備事業		○		
	41	ボランティア人材バンク事業		○		
	42	生涯学習推進事業	○			
	43	青少年体験活動推進事業	○			
	44	公民館・分館等の連携強化推進事業		○		
	45	分館及び自治公民館等活動費補助事業		○		
	46	コミュニティ活動支援		○		
(3)図書館の利用促進	47	公民館事業		○		
	48	図書館施設管理運営事業		○		
	49	読書活動推進事業		○		
	50	図書館ボランティア養成事業		○		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)スポーツ推進計画の策定	51	スポーツ推進計画の策定	事業完了 (H25)			
(2)子どもの体力・運動能力向上の推進	52	プロジェクト K(旧:ゴールデンエイジプロジェクト)	○			
	53	コーチングスキルアップ	○			
(3)スポーツ活動の活性化	54	スポーツコミュニティ創造事業	○			
	55	体育施設管理運営事業	○			
	56	スポーツ大会支援事業	○			
(4)スポーツ大会の誘致	57	スポーツ大会誘致事業	○			

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	58	人権・同和教育推進事業		○		
(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	59	人権学習推進事業		○		
	60	解放子ども会育成事業		○		
	61	解放学級育成事業		○		

○重要課題7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)美術に関する創造的活動の推進	62	文化芸術活動推進事業		○		
	63	美術館運営管理事業	○			
	64	企画展事業	○			
	65	美術館ボランティア事業		○		
	66	美術教育普及事業	○			
(2)文化財の保護・継承・活用	67	歴史民俗教育普及事業	○			
	68	文化財保護事業	○			
	69	歴史民俗資料展示・保管施設の管理活用事業	○			

☆点検評価表の見方☆

事業名 (予算・決算)	[番号] 事業名 (課 : 係) (予算 : 千円 決算 : 千円)																				
目 的	事業の目的について記載しています。																				
事業内容	平成26年度に実施した事業について記載しています。																				
H26年度の課題と取組	【課題等】 平成26年度の課題として挙げた事項等を記載しています。 【課題等への取組】 上記の課題について、どのような取組みをしたか記載しています。																				
事務局 自己評価	<table border="1"> <tr> <th>評価項目</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr> <td>事業の必要性</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>事業の効果</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>事業の効率性</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	評価項目	A	B	C	D	事業の必要性					事業の効果					事業の効率性				
	評価項目	A	B	C	D																
	事業の必要性																				
	事業の効果																				
	事業の効率性																				
【自己評価の根拠】 自己評価に至った理由について記載しています。 評価の指標は、次のとおりです。 A : 期待通り B : 概ね期待通り C : 課題あり D : 事業の見直し要																					
第2次教育 アクションプランの まとめ	第2次教育アクションプラン全体の総括について記載しています。																				
第3次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	第2次から第3次教育アクションプランへの方向性とその課題について記載しています。																				
『評価委員の意見』																					
点検評価委員会議でいただいた、評価委員の意見を記載しています																					
教育委員会評価		今回	評価委員の意見を踏まえ、教育委員会が評価しました。																		
		(前回)	昨年度の評価です。																		

○ 重要課題1 少人数指導等による学力向上

(1)確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[1] 少人数指導推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：１０８，０２５千円　　決算：１０８，０２５千円)				
目 的	少人数指導（１学級を３０人以下の児童又は生徒で編制する等の指導形態をいう。）により、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	小学校１５名、中学校１１名の少人数指導特別教員を配置し、小・中学校の少人数指導を推進しています。				
H２６年度の課題と取組	【課題等】 福岡県や県内他市町村においても多くの講師を任用しており、よりよい人材を確保するためにも、退職教員の雇用とともに、現在雇用している講師の指導・支援による人材育成が必要です。 【課題等への取組】 昨年度の講師の継続雇用、校長会や教頭会への依頼による退職教員への声かけ、教員養成系の大学への依頼など人材確保に努めています。また、講師の指導支援については、嘉麻市教育センターにおける研修会の実施や指導主事による継続的な指導を進めています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 少人数指導の実施により、きめ細かな指導が充実することで、基礎・基本の学力の定着が図られるとともに、問題行動も減少し、落ち着いた学校生活が送れるようになりました。平成２６年度全国学力・学習状況調査結果において、小学校では、７校中３校がいずれかの教科区分において、全国平均正答率を上回りました。そのうち、１校は、全ての教科区分において、全国平均正答率を上回っています。また、中学校においては、５校中１校が全ての教科区分において、全国平均を上回っており、学力向上が図られてきました。 嘉麻市教育センター主催の研修会の実施や退職校長が指導主事として若年講師の指導の回数を増やすなど、講師の指導力向上に努めました。				
第２次教育 アクションプランの まとめ	本事業の実施により、一人ひとりの児童生徒へのきめ細かな指導が可能となり、学習面では、実態に応じた指導が展開できるようになりました。このことは、生活面での落ち着いた態度にもあらわれてきています。				
第３次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	平成２９年度までには、小・中学校ともに、全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国平均を上回ります。そのためにも、市費による少人数指導特別教員のさらなる授業力・指導技術向上の指導、支援を強化します。				
『評価委員の意見』					
・より個に応じた指導、これらにより求められる教育と思います。					
・一人ひとりの子どもを大切にできる取組みとして、是非継続して欲しいです。					
・学力向上及び生活面にも良い効果が出ていると思われます。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A:期待通り、B:概ね期待通り、C:課題あり、D:事業の見直し要

○ 重要課題1 少人数指導等による学力向上

(1)確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[2] 学校提案型学力向上事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：3, 276千円 決算：3, 128千円)				
目 的	学校提案による教育課程外の事業を実施することにより、各学校・地域等の活性化を図り、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	学校提案による個に応じた学力向上モデル事業、学校外補習学習推進事業、学校創意工夫事業を小学校7校、中学校5校で実施しました。				
H26年度の 課題と 取組	【課題等】 30人以下学級による少人数指導の成果が徐々に出ていますが、依然として全国学力・学習状況調査で、嘉麻市の平均正答率は全国平均を下回っており、基礎学力が定着していない児童生徒が多く見られます。そのため、学力定着度に応じた事業を実施するなど、児童生徒の実態に応じた取組みを継続して行う必要があります。 【課題等への取組】 基礎学力の定着に向け、反復練習、補習学習等の学校独自の取組みを進めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校提案型学力向上事業として、夏季、冬季休業中や放課後に、反復練習、補習学習等を行いました。平成26年度全国学力・学習状況調査結果において、小学校では、7校中3校がいずれかの教科区分において、全国平均正答率を上回りました。そのうち、1校は、全ての教科区分において、全国平均正答率を上回っています。また、中学校においては、5校中1校が全ての教科区分において、全国平均を上回っており、学力向上が図られてきました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	本事業の特徴である各学校の独自性が見られるようになってきました。小学校では、地域ボランティアを活用する学校、中学校では、3年生に焦点化して取組みを進める学校があります。また、学力の定着度を踏まえた個に応じた反復練習や補習学習等が徐々に効果を上げてきました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	平成29年度までには、小・中学校ともに、全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国平均を上回ります。そのためにも、基礎学力が定着していない児童生徒に対するよりきめ細かな指導が必要であり、児童生徒の学力の実態に応じた取組みを継続して行う必要があります。				
『評価委員の意見』 ・すべての児童生徒の学力向上に向けては、各自に合った指導が必要だと思います。又、意欲的、主体的に学習に取り組めるような指導も大切です。 ・学力向上が見られます。 ・地域ボランティアの活用をお願いします。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題1 少人数指導等による学力向上

(1)確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	【3】研究指定校補助事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：1, 100千円 決算：1, 100千円)				
目的	研究指定事業を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、一人ひとりの資質の向上に向けた研修等への参加支援体制の整備を図ります。				
事業内容	研究指定校の2年次の発表会を行いました。また、研究指定校を3ヵ年事業として、毎年中学校区単位で委嘱し、3年次に研究発表を行います。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 委嘱校における校内研究の進捗状況を把握し、進捗状況に応じた指導、支援を計画的・継続的に行う必要があります。 【課題等への取組】 指導主事を派遣し、授業づくりや授業後の協議等を行いました。また、研究に係る情報提供を積極的に行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 2ヵ年事業においては、小学校2校、中学校1校の研究発表会を行いました。また、校内において研究の活性化が図られるとともに、教職員の研究の日常化の意識が高まってきました。特に、授業改善に向けた教材研究を積極的に進める教職員が増えてきました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	研究発表会は、全教職員の研究に対する前向きな姿勢をもつ良い機会です。また、発表会を終えた学校については、研究成果の継続的な実践を進めたり、継続して授業改善を図ったりすることにつながっています。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	委嘱校を中学校区で指定することにより、小中連携した取組みの構築が期待されます。また、発表会後は、研究の成果の報告とともに、県や市の教育論文の提出にもつなげていくよう本事業を発展させます。				
『評価委員の意見』					
・研究発表会に参加しました。すばらしかったです。 ・研究の成果を活かし、教職員の指導力の向上をお願いします。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題1 少人数指導等による学力向上

(1)確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[4] 学力検証事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算： 6, 9 4 9 千円 決算： 6, 5 8 6 千円)				
目 的	児童生徒の実態を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組みの改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育の充実を図ることです。				
事業内容	学力検査を実施し、嘉麻市内の児童生徒の実態を把握し、分析を行いました。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 学力検査実施後に検査結果の分析を行い、課題解決に向けた改善策を立案し、実践を進めていくことが必要です。 【課題等への取組】 学力検査を市内のすべての小・中学校で実施しました。また、教務主任研修会や本市の学力向上検証委員会において、各学校の学力実態の分析を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小学校における標準学力検査結果では、国語、算数ともに平均偏差値が5 0 ポイントに達することができました。中学校の学力検査においては、昨年度比 1 4 教科区分（検査実施教科×3 学年）中、1 0 教科区分の数値の上昇が見られました。しかし、全国学力・学習状況調査においては、嘉麻市の平均正答率は全国の平均点を下回っており、十分な成果があらわれるまでには至っていません。				
第 2 次教育 アクションプランの まとめ	児童生徒の学力の実態を分析的に洗い出すことにより、個別の課題とともに、学校全体の課題も明確となり、学校内の組織的な取組みの改善とその推進が図られるようになってきました。				
第 3 次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	小学校における標準学力検査の平均偏差値 5 0 ポイント以上の維持、中学校における学力検査の県平均を上回るためにも、本事業を継続し、定期的な評価を行い、改善策を見出し、短期的・長期的な見通しをもって取組みを進めていくことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・学校提案型では中学校において、5 校中 1 校が全ての教科区分において全国平均を上回るものの、検証事業では全国平均を下回る結果であることから、中、長期的に学力向上に向けた教育が望まれると思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1)個性や能力を伸ばす教育の充実

事業名 (予算・決算)	【5】特別支援教育総合推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：1, 155千円 決算：1, 155千円)				
目 的	保育所（園）・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育を総合的に推進することです。				
事業内容	巡回相談や個別の教育相談の実施等、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒を支援しました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 子どもの発達に関する専門的な知識を持ち、連絡・調整、情報収集等を行う巡回相談員（臨床心理士）の活用や、子どもの成長記録や生活の様子、指導内容に関するあらゆる情報を記録し、必要に応じて関係機関が共有できる相談支援ファイル「かまっこすくすくファイル」等の活用が必要です。 【課題等への取組】 巡回相談の相談員（臨床心理士）による、就学前から就学における、支援が必要な幼児、児童の早期発見と、早期対応を行いました。また、一昨年度作成した関係機関と情報共有ができる相談支援ファイルを支援が必要なこどもの保護者に配付し、情報の共有を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校教育課、健康課、こども育成課が連携していくことで、就学前から中学校、さらには高等学校（大隈城山校）まで視野に入れた段差のない、ニーズに応じた教育活動が展開されるようになりつつあります。また、巡回相談を実施し、専門的な指導助言を受けることで、幼児児童生徒の実態に応じた適切な支援や指導が行われるようになってきています。				
第2次教育アクションプランのまとめ	巡回相談員（臨床心理士）を活用した支援体制、関係機関が情報を共有できる相談支援ファイルの活用、リーフレットの全戸配布などの特別支援教育の啓発を行うことにより、早期からの支援体制が構築されてきました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	早期からの支援体制構築のためには、発達支援連携協議会等の実施、関係課（学校教育課、健康課、こども育成課）打合せ、早期支援コーディネーター（臨床心理士）の活用、相談支援ファイルの活用、関係機関の連携、特別支援教育の啓発等が必要であり、今後も継続して、支援体制整備に努めます。				
『評価委員の意見』					
・各課の連携、高等学校までの視野、早期からの支援が子どもにとって、とても心強いと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A: 期待通り、B: 概ね期待通り、C: 課題あり、D: 事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1)個性や能力を伸ばす教育の充実

事業名 (予算・決算)	[6] 補助教員配置事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：71,235千円 決算：68,507千円)				
目的	特別支援教育充実のための補助教員、介助員、支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。				
事業内容	特別支援教育補助教員17名、特別支援学級介助員3名、特別支援学級支援員13名を配置し、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 一人ひとりの実態に応じた適切な指導や支援を行うための特別支援教育に係る専門的な研修を受ける機会を増やすことが必要です。 【課題等への取組】 補助教員、介助員、支援員の専門的指導や支援ができることを目的とした嘉麻市教育センター主催の特別支援教育の研修会を実施しました。また、県が実施する研修会にも積極的に参加するよう指導しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 特別支援学級に該当しない発達障がいのある児童生徒の支援、保護者の同意が得られないため、特別支援学級に入級できない児童生徒の支援、病気のため、日常生活の見守りが必要な児童の支援のために、補助教員17名、介助員3名、支援員13名を配置し、子ども一人ひとりのニーズに応じた教育支援を実施しました。しかし、学校全体で組織的・継続的に支援する体制が不十分な点があります。				
第2次教育アクションプランのまとめ	補助教員等の配置により、担任に負担感をもたせていたところが解消できています。また、特別支援教育に係る研修会の実施や研修会への参加奨励により、専門的な指導や支援が行えるようになってきました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	一人ひとりの児童生徒の教育ニーズに応じた補助教員等の適切な配置と任務内容に対応した特別支援教育に係る研修を継続して実施することにより、さらに充実した特別支援教育の推進を進めていきます。				
『評価委員の意見』 ・一人ひとり実態が違うので、担任と共に複数で子どもに関わられて良いと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2)社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[7] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課:教務係／指導係) (予算: 23, 049千円 決算: 22, 927千円)				
目 的	言語や文化について、体験的に理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を養い国際感覚を身に付けさせることです。				
事業内容	国際的な共通語として英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的に理解を深めるために、外国語指導助手（A L T）の活用による外国語活動の充実を図ります。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 各中学校区に配置しているA L Tを活用することにより、教職員の指導力向上を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る必要があります。 【課題等への取組】 各中学校区に配置しているA L Tを活用し、教職員の指導力向上を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 A L Tを各中学校区に1名配置し、小・中学校における外国語教育の充実を図ることができました。また、外国語教育を更に充実させるため、平成25年度からはA L Tを業務委託から労働者派遣に変更することにより、T T（チームティーチング）による授業が行えるよう契約方法の変更を行いました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	A L Tを活用し、英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めるため、外国語教育の更なる充実、教職員の指導力向上のための取組を行うことができました。				
第3次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	今後も教員が主となる授業展開とA L Tの専門性を活用した授業を行うことにより、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、教職員の指導力向上に取り組む必要があります。また、国の動向、特に、中学校の英語新テスト（「読む・聞く・書く・話す」4技能測定）や小学校の外国語活動の教科化を踏まえた研修会等の実施が必要です。				
『評価委員の意見』 ・A L Tを小学校全般に配置することが、必要になってくると思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A: 期待通り、B: 概ね期待通り、C: 課題あり、D: 事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2)社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[8] 情報教育推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：4, 7 6 0千円 決算：4, 5 5 7千円)				
目 的	児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるようにするため、情報教育の充実を図ります。				
事業内容	嘉麻市教育センターに情報教育推進教員1名、I C T支援員1名を配置し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育を行いました。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 コンピュータ等の情報機器を使うことが目的とならずに、問題解決に向けた情報の収集や選択、発信を行うことを目的とした授業改善が必要です。また、教職員の事務処理を効率よく進める環境整備も必要です。 【課題等への取組】 情報教育推進教員1名、I C T支援員1名を配置し、I C Tを活用した授業改善、校務の電算化を推進しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 情報教育推進教員の配置により、児童生徒用のノートパソコンや電子黒板、タブレット用パソコン等の情報機器を活用した授業実践や研究を実施しています。また、I C T支援員の配置により、各学校の情報教育の充実に向けたサポート体制を整備し、通知表等の校務の電算化を推進し、学校ホームページを整備しました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	各学校における情報機器を活用した授業改善や、教員の情報活用能力の向上が図られてきました。また、校務の電算化により、事務処理の軽減が図られてきました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後も継続して、情報教育推進協議会や情報教育研修会を実施し、問題解決的な学習の中で、調べ活動や表現活動に情報機器を活用する学習を進めるよう促します。また、L I N EなどSNS（ソーシャルネットワークサービス）について、適切な利用の在り方の指導も併せて進めるよう促していきます。				
『評価委員の意見』 ・使うことだけで終わらせないために整備が必要だと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2)社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[9] 情報教育施設整備事業（学校教育課：管理係） (予算：55,061千円 決算：54,867千円)				
目 的	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、情報教育を行うための情報機器の整備・維持管理を図ります。				
事業内容	市内小、中、高等学校（14校）のPC教室のパソコンリース及び保守並びに教育用PC及び校務用PCの保守を行い、情報教育の充実を図ります。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 昨年度、校務用PCのファイルサーバーが故障し、脆弱さが露見したため、早急に、ファイルサーバー等を強固にし、安全性を高めるためのシステムの構築等が必要となります。 【課題等への取組】 校務用PCのファイルサーバーの脆弱さを改善するため、ファイルサーバーのバックアップ機器の設置を行いました。また、保守点検を強化するため、各学校のファイルサーバーの異常をリモート操作で確認できるようにしました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 前年度に校務用PCのファイルサーバーが故障したため、ファイルサーバーのバックアップ機器の設置及び保守点検の強化を行い、安全性の再構築に努めました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、ICT支援事業（国庫補助）による情報機器の整備・維持管理を図ります。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用できるように、情報教育を行うための情報機器の整備や維持管理を行っていきます。また、嘉麻市超高速ブロードバンド整備計画により光ファイバーによる情報通信基盤の整備完了後、各学校のファイルサーバーによるデータ管理をデータセンターへ変更することで経費の削減が図れます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3)信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算・決算)	[10] 嘉麻市教育センター研修推進事業 (学校教育課：教務係／指導係) (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目的	嘉麻市教育センターを中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。				
事業内容	教職員研修、授業充実研修、専門研修の実施、校内研修における指導助言を行います。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 若年講師への指導（教科等の指導、学級経営等）の指導力量を高めることが急務です。また、専門的知識を必要とする教員に対する研修会の実施も必要です。さらには、中学校における教科を研究できる場を設定することも必要です。 【課題等への取組】 嘉麻市教育センター指導主事を中心に、教職員研修、授業充実研修、専門研修を実施し、教職員の指導力向上に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市教育センターに指導主事を配置し、教職員研修の充実に努めました。また、平成26年度は、学校訪問件数60回の指導主事派遣により、計画的・継続的な授業改善に取り組むことができています。しかし、短期的に成果を期待することは難しく、継続した指導・支援が必要です。				
第2次教育アクションプランのまとめ	少人数指導特別教員等の市費負担講師の増加、定数欠等の県費負担講師も増加しており、若年講師への指導・支援は欠かせません。このような現状を踏まえ、若年講師への指導・支援の充実が図られてきました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	今後も若年講師に対する研修内容、方法、時期、機会の更なる充実が必要です。そのためにも、新規事業である「嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業」における学力向上推進員を積極的に活用し、指導・支援の充実を図ります。また、中学校教科研究会を立ち上げ、中学校における授業力向上に努めます。				
『評価委員の意見』 ・教師が若いということは、子どもに近いという利点もあると思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3)信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算・決算)	[1 1] 教職員人事配置事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	教職員の交流を図り、人事の適正化を進めます。また、地域の実態を踏まえ、学校間格差をなくす人事配置を実施します。さらに小中学校連携の推進の観点から小・中学校の人事交流を行っていきます。				
事業内容	地域の実態を踏まえ、学校間格差をなくす人事配置を実施し、小・中学校の人事交流を行いました。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 年齢構成や指導力量のバランスに配慮したきめ細かな人事配置が必要です。 【課題等への取組】 年齢構成や指導力量に配慮したり、定数欠や教科欠にならないように、定期的に学校の実態把握を行いながら、きめ細かな人事配置を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 年齢構成や指導力量に配慮した人事配置を実施しました。また、定数欠や教科欠にならないよう、学校の実態を把握しながら、人事配置を行いました。しかし、各学校の状況把握が不十分な点があり定数に欠員が出る学校もありました。				
第 2 次教育 アクションプランの まとめ	年齢構成や指導力量に配慮した人事配置を実施しました。また、嘉穂地区の小学校の統廃合のため、小学校の教職員が定数を超える状況にならないよう、人事配置を実施しました。しかし、中学校の教科において欠員が生じる課題もありました。				
第 3 次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後も学校格差をなくす適切な人事配置を第一に、人事ヒアリングを定期的に行いながらきめ細かな人事配置に努めます。また、同一校での長期勤務の教職員の計画的な人事配置も行います。その上で、学校の活性化や特色ある学校づくりに対応できる、長期的な展望による人事の適正な配置をめざします。				
『評価委員の意見』 ・「小中学校の人事交流」というのが、小学校と中学校の教員免許の内容が違うと思いますが、簡単にできる事なのか心配です。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4)安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[1 2] 学校防犯体制整備事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算： 9, 5 4 4 千円 決算： 9, 1 0 7 千円)				
目 的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組みの充実を図ります。				
事業内容	学校支援員（警察OB）を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。地域学校安全推進員（スクールガードリーダー）による校内の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図りました。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 生徒指導上の問題については、学校の指導だけでは限界があります。また、通学路の安全点検、危険箇所の改善要望等を行い、児童生徒が安全に登下校できるよう対策を講じる必要があります。さらに、不審者情報についても周知徹底する必要があります。 【課題等への取組】 学校支援専門員と学校との密な連携、スクールガードリーダーや地域ボランティアによる通学路での安全指導の実施を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 生徒指導上の問題については、学校支援専門員と警察等関係機関との連携により、迅速な生徒指導対応ができました。また、スクールガードリーダーの配置、地域ボランティア、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備は進んでいます。 不審者事案が発生した場合は、学校支援員と警察が連携して、巡回等を行うことにより、深刻な事態に発展しないよう対応しています。				
第 2 次教育 アクションプランの まとめ	様々な生徒指導上問題に対しても、迅速かつ適切に対応することができています。また、不審者情報の周知徹底や防犯メールの実施により、地域への防犯意識も高まってきました。				
第 3 次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	学校と学校支援専門員と警察等関係機関との連携をさらに強化し、様々な生徒指導上の問題の対応を進めます。また、「事件・事故の発生件数『0（ゼロ）』!」をめざし、定期的な通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、安心メール等による不審者事案への早期対応を行うことにより、児童生徒が安全に登下校できるよう努めます。				
『評価委員の意見』 ・毎朝の地域学校安全推進員の皆様の見守りには感謝します。 ・通学路の見直しをお願いします。 ・不審者情報メールは非常に助かります。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A:期待通り、B:概ね期待通り、C:課題あり、D:事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4)安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[1 3] 通学対策事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：3, 3 7 6千円 決算：3, 3 0 7千円)				
目 的	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減します。				
事業内容	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減するため、通学費の補助、スクールバスの運行を行っています。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 遠距離通学する児童生徒の安全確保と保護者の通学費の負担を軽減することが必要です。 【課題等への取組】 バスの定期券の購入費用の補助、スクールバス運行による児童生徒の送迎を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 稲築西小学校及び嘉穂中学校に通学する児童生徒のうち、遠距離通学している児童生徒のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂中学校及び嘉穂小学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行っています。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	稲築西小学校及び嘉穂中学校に通学する児童生徒のうち、遠距離通学している児童生徒のバス定期券の購入費用の補助とともに、平成26年度に開校した嘉穂小学校のスクールバスと嘉穂中学校のスクールバスによる送迎も行うことができました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後も、遠距離通学している児童生徒のバス定期券の購入費用の補助を100%実施します。また、嘉穂小学校と嘉穂中学校のスクールバスによる送迎も行います。スクールバスについては、その運用方法について協議が必要となります。				
『評価委員の意見』 ・スクールバスの送迎には、運用方法の協議を深めてください。 ・通学路の見直しを早めに実施してほしいです。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4)安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[1 4] 学校施設維持管理事業（学校教育課：管理係） (予算：94, 134千円 決算：83, 071千円)				
目 的	すべての児童生徒が安心・安全な環境において、生活（学習）できるよう小・中学校の補修、修繕、草刈等環境整備を実施し、施設維持の管理を行います。				
事業内容	・市内小、中学校 13 校（小学校 8 校、中学校 5 校）の施設整備及び維持管理 ・牛隈小学校大規模改造工事、上山田小学校天井改修工事等 ・施設維持管理業務委託（草刈、清掃、樹木剪定、浄化槽維持管理等）				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 安心・安全な教育環境を維持するために、緊急性を要するものから施設の整備を行います。 【課題等への取組】 緊急性の高いものから施設整備を実施し、安全性の確保に努めています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 今年度は、安心・安全な教育環境の整備のため、牛隈小学校大規模改造工事、上山田小学校天井改修工事を行いました。 今後も、順次計画的に学校施設の大規模改造工事を行う予定です。				
第 2 次教育 アクションプランの まとめ	平成 2 1 年に策定した嘉麻市学校施設整備基本計画に基づき大規模改造工事を行うとともに、安心・安全な施設の維持管理に努めました。				
第 3 次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	引き続き安心・安全な施設の環境整備を行うとともに、今年度中に第 2 次嘉麻市学校施設整備基本計画を策定し、計画的に大規模改造工事を含む施設の改修、改善を実施していきます。				
『評価委員の意見 ・学校格差が起こらないように、どこも早く大規模改修をしていただきたいと思います。 ・小中一貫校での建て直し等も考え、計画性を持たれて改修してもらいたいです。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4)安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	【15】大隈城山校維持管理事業（学校教育課：管理係） (予算：14,787千円 決算：13,491千円)				
目的	すべての生徒が安心・安全な環境において、生活（学習）できるよう、校舎等の適切な維持管理を行います。				
事業内容	大隈城山校の施設整備及び維持管理（建築年度：昭和61年度）				
H26年度の課題と取組	【課題等】 年次計画的に老朽化した施設の整備を図る必要があります。 【課題等への取組】 屋内消火栓ポンプ改修工事を行うとともに、清掃業務や浄化槽維持管理業務等を適切に実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 大隈城山校は、地域の高等教育機関の教育の場として大きな役割を果たしています。今年度は、屋内消火栓ポンプ改修工事を行うなど施設の整備を行いました。今後も、老朽化した施設の整備を継続的に実施し、安心・安全な教育環境の維持管理に努めます。				
第2次教育アクションプランのまとめ	安心・安全な教育環境の維持のため、年次計画的に老朽化した施設の整備を行いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	引き続き安心・安全な施設の環境整備を行うとともに、今年度中に第2次嘉麻市学校施設整備基本計画を策定し、計画的に施設の改修、改善を実施していきます。				
『評価委員の意見』 ・学校の宣伝も進めてもらいたいです。 ・子ども、保護者がより所としているところの多い城山高校と良く聞きます。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6)地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[1 8] 学校関係者評価事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：393千円 決算：210千円)				
目 的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて学校運営の改善と発展を目指します。				
事業内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 開かれた学校、信頼される学校づくりに向け、学校運営状況を保護者や地域住民等に公表する必要があります。 【課題等への取組】 学校関係者評価を全校で実施し、学校ＨＰで結果をすべて公表しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 すべての学校で自己評価に基づく、学校関係者評価の実施・公表・報告が確実に行われました。しかし、公表の方法や内容については更なる工夫が必要です。また、評価項目についても、各学校の重点施策に併せた絞込みが必要です。				
第２次教育 アクションプランの まとめ	学校関係者評価の結果の公表については、その客観性・透明性を確保することができました。				
第３次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後も、学校運営改善と発展を目指し、学校関係者評価における学校評価結果、改善策の公表を学校ＨＰ等で行い、自己評価の質の向上と、保護者・地域住民との連携強化を図ります。				
『評価委員の意見』 ・評価の資料、説明の仕方等の内容の統一性をお願いしたいと思います。 ・保護者、地域住民との連携強化を図るためにも、学校関係者評価の活用方法を考えてはどうかと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6)地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[19] 学校開放事務事業（学校教育課：管理係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	生涯学習社会における、文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより地域住民の生涯学習の推進を図ります。				
事業内容	学校教育に支障のない限りにおいて、市内小、中学校13校（小学校8校、中学校5校）の体育館及び運動場等の施設を開放します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 施設利用申請時の受付業務の簡素化のため、申請書の見直し等を行い、許可書発行までの事務の簡素化を検討します。 【課題等への取組】 申請書類の見直しを行い、施設利用の申請から許可書発行までの事務を各学校で行うようにしました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域住民の継続した運動機会を確保するためにも、学校施設の開放は必要な事業であり今後も継続して行います。 本年度の課題である施設利用申請時の受付事務の簡素化のため、申請書類の見直しを行いました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	申請受付から許可書発行までの手続きの簡素化のため、各団体の申請方法と申請書類提出の見直しを行いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	生涯学習社会における、文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより地域住民の生涯学習の推進を図ります。また、各利用団体の学校施設開放に関する利用規定を整備する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・体育館使用において、年間を通し曜日区分にてサークルが独占する傾向にあり、改善が必要だと思います。 ・何回かの利用者に、若干の配慮、譲り合いが必要かと思っています。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7)小中連携教育への取組み

事業名 (予算・決算)	[20] 小中連携・一貫教育研究事業 (学校教育課：教務係／指導係) (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	研究開発校や構造改革特区における小中一貫教育の取組みの成果を踏まえ、カリキュラム区分の弾力化など小・中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて、種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小・中学校間の教職員の人事交流や共同研究、小中連携した学力向上の取組、生徒指導の連携などを図ります。				
事業内容	小・中学校間の教職員の人事交流や共同研究を通して、小中連携を推進しています。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 小・中学校が連携し、初等教育（一般の小学校で行われている教育）と前期中等教育（一般の中学校で行われている教育）の課程、いわゆる9カ年を見通した教育課程の編成が必要です。 【課題等への取組】 小・中学校間の教職員の人事交流を実施し、小中連携に向けた各中学校区での取組みの推進を図るようにしました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性		○		
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小・中学校間の教職員の人事交流を実施しました。また、5中学校区ごとに、小・中学校が連携して取組みを推進できる組織作りを行うよう指導しました。しかし、小中連携に関しての協議時間の確保が難しく、共通理解と共通実践が不十分な現状があります。				
第2次教育アクションプランのまとめ	本市の3つの教育課題（学力の向上、不登校児童生徒の解消、規範意識の醸成）を解決するための方策として、小中連携の重要性の認識は高くなってきました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	先進地視察等を通して、小中連携及び小中一貫教育の嘉麻市内でのあり方を研究し、小・中連携教育等の基本方針を作成します。また、モデル校を指定し、検証も進めます。				
『評価委員の意見』 ・小中連携は必要な取組みだと思います。 ・小中一貫については、慎重に研究し、急ぎすぎないでほしいです。 ・就学前教育も含めて考える必要があると思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8)教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[2 1] 就学援助事業（学校教育課：教務係） (予算：77,037千円 決算：76,556千円)				
目 的	学校教育法第19条に、「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。」と規定されており、経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。				
事業内容	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市内には経済的理由により、就学が困難な児童生徒が約4割在籍しており、該当児童生徒の把握、適正な支援が必要です。 【課題等への取組】 平成25年度の生活保護基準の見直し（保護費の減額）に伴う規程改正により、継続した支援を行うことができました。また、広報紙、保護者へのチラシの配布等での就学援助の申請時期等を周知することにより、援助の必要な保護者に申請を促しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の申請に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を負担することができました。しかしながら、本事業の周知につきましては、広報紙、チラシ等の配布を行いました。申請窓口変更等の周知に不十分な点がありました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	生活保護基準の見直しがあったものの、経済的理由により就学が困難な児童生徒の支援を最優先し、規程の改正を行いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	今後も、継続して該当児童生徒への援助と本事業の広報等の情報発信を行い学校と連携を図りながら周知を行っていきます。				
『評価委員の意見』 ・就学が困難な児童生徒が、約4割在籍しているのは多いと思いました。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8)教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	【22】奨学金事業（学校教育課：教育総務係） (予算：22,574千円 決算：22,271千円)				
目的	嘉麻市独自の奨学金制度により、高等学校や大学等に進学、修学するための奨学金を貸し付け、経済的理由による、修学困難者の軽減を図ります。				
事業内容	嘉麻市奨学資金貸付及び返還に関する業務 (貸与中の人数：54人) (返還中の人数：182人)				
H26年度の課題と取組	【課題等】 滞納者の実態調査や納付相談を行い、個々に応じた督促等を行い、徴収率向上に努める必要があります。 【課題等への取組】 滞納者に督促状を送付し、その後納付相談を行うことで徴収率の向上に努めました。 口座振替制度の推進についても継続して行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 奨学金制度を広報、市ホームページに掲載するとともに、中学校、高等学校に周知を行い、新規に18名の貸付を行いました。 返還事務については、口座振替の推進、催告後の納付相談等により、嘉麻市奨学金返還の収納率が平成25年度49.5%から平成26年度51.4%と約1.9ポイント上昇しました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	第2次アクションプラン3ヵ年において新たに55名に貸付を行い、経済的理由による修学困難者の軽減を行いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	経済的理由による、修学困難者の負担軽減の点からも事業を継続して実施します。 返還金徴収率の向上に努めるとともに、未然に滞納を防止する措置を実施します。				
『評価委員の意見』 ・貸付をするときに、返還のことを重視して説明をしてもらいたいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8)教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[23] 幼稚園就園奨励費支給事務事業 (学校教育課：教務係) (予算：36,580千円 決算：36,255千円)				
目的	幼稚園教育の一層の普及及び充実を図るため、幼稚園に就園させている世帯に対し、保護者の所得状況に応じて、保育料等の支払の経済的負担の軽減を図ります。また、普及を図るため、広報等により情報を発信します。				
事業内容	私立幼稚園の設置者が、当該幼稚園に在園する保護者に対して、保育料の減免措置を行った額を補助しています。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 国の施策であり、国の補助基準額に基づき、補助を実施しています。国からの補助率は1/3であるため、補助基準額や申請者数が増加することにより市の負担額が増加します。 【課題等への取組】 国の基準により、補助金の交付を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 国の補助基準に基づき、速やかに補助金の交付事務を実施することができました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	この制度により、保護者の経済的な負担の軽減を図り、公立、私立幼稚園の保護者負担の格差を是正することといった本制度の目的は達成しました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	本事業は、平成27年度より、担当課が変更になりました。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1)道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[2 4] 道徳教育推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな自然・社会体験を通して児童生徒の内面に根差した道徳性の育成を図ります。				
事業内容	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りました。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 教育活動全体で行う道徳教育に要である道徳の学習の時間が、適切な実施及び充実するように、指導・助言を繰り返し行っていく必要があります。 【課題等への取組】 道徳の時間の時数確保と初任者研修における道徳の授業を中心に、道徳の授業改善を進めました。また、各学校での道徳の時間の授業参観を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 各小・中学校ともに、年間35時間（小1は34時間）の指導時数は確保できています。また、学習指導要領に示されている内容項目も全て指導されています。しかし、基本的な学習過程に基づいた指導、学校や児童生徒の実態に応じた重点項目の絞込み等、今後も継続して指導することが必要です。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	道徳の時間の量的な確保（指導時数や指導すべき内容項目の指導）は、実施することができています。しかし、質的な確保（基本的な学習過程に基づいた指導や学校や児童生徒の実態に応じた重点項目の絞込み）については、不十分な点があります。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	本市の教育課題の一つである規範意識の醸成には、道徳教育、中でも道徳の時間の充実は不可欠であり、今後も継続して指導・助言を繰り返し行っていく必要があります。また、家庭や地域社会との連携を図ることも視野に、道徳の時間の公開授業を行います。さらに、道徳の教科化に向けての研修も行います。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1)道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[25] キャリア教育推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：142千円 決算：129千円)				
目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。				
事業内容	市内の中学校において、総合的な学習の時間の中で、職場体験を実施しました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 地域と連携した活動を充実するためにも、校区内・市内の協力事業所を開拓する必要があります。 【課題等への取組】 職場体験学習を市内すべての中学校で実施しました。校区内・市内の協力事業所の開拓については、各学校との連携をしながら、情報共有に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 職場体験学習（2日～3日）を市内の全中学校で実施し、生徒の職業観や進路選択に向けた意識に変容がみられました。しかし、体験場所の校区内・市内での掘り起こしや体験学習の日数には、まだ検討の余地があります。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	本事業は、体験的な学習活動ができること、生徒自身に職業観や労働観、自己の生き方を見つめさせることができることから効果が期待できる事業です。 学校の指導のもと、生徒自らが体験場所を探し、交渉して実施するなど、自分の力で探究していく力を付けていくような学習になるようにしていきます。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と課題	受け入れの事業所の拡大と、協力事業所との打ち合わせ会、指導内容、職場体験日数の再検討を行うことが必要です。また、生徒自らが体験場所を探し、交渉して実施するなど、自分の力で探究していく力を付けていくような学習になるように指導していきます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1)道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	【26】 ボランティア活動推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	家庭や地域社会と連携して、児童生徒が他の人々や社会のために役立つとともに自分が価値のある存在であることを実感し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図ります。				
事業内容	市内全小・中学校において、ボランティア活動を計画的に実施しました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 各学校においてボランティア活動が定着してきているものの、地域や家庭の協力を得るなど、地域社会と連動した活動にしていく必要があります。 【課題等への取組】 各学校のボランティア活動の啓発や活動の様子を、家庭や地域に積極的に発信するように努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の清掃活動、河川清掃等、各学校の特色を活かしたボランティア活動を実施しました。また、学校通信等で、ボランティア活動の啓発や活動の様子を発信することができました。しかし、その活動の目的や身につけさせたい力が不明確な活動が散見されます。				
第2次教育アクションプランのまとめ	ボランティア活動は、社会奉仕の精神の涵養にかかわる体験活動であり、その活動そのものに価値があり、児童生徒にその意識をもたせることができました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	各学校においてボランティア活動が定着してきており、その充実に向けては、学校・家庭・地域の三者も密接な連携が必要です。そのためにも、地域や家庭の協力を得るなど、地域社会と連動した活動にしていく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・ボランティア活動も大切ですが、それが家族にも広がるように教えてもらいたいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[27] 学校保健事業 (学校教育課：教務係／指導係) (予算：20,819千円 決算：19,926千円)				
目的	家庭、地域及び関係機関等の連携・協力により、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。				
事業内容	児童生徒及び教職員の健康診断を実施しました。また、市内の小・中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行いました。さらに、各学校において学校保健及び学校安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行いました。 災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 法令に則り、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ることが必要です。 【課題等への取組】 要精密検査対象者の医療機関受診奨励等を行い、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 児童生徒及び教職員の健康診断を実施することができました。また、市内の小・中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行いました。さらに、各学校において学校保健及び学校安全に関する年間計画の作成状況を把握しています。 災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を確実に処理しました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	法令により実施している事業であり、確実な実施ができました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	今後も、法令に則り、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。				
『評価委員の意見』 ・子ども、先生の心の健康は、今からとても大切になってくると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[28] 学校給食運営事業（学校教育課：学校給食係） (予算：245,406千円 決算：232,659千円)				
目的	嘉麻市内小・中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実につとめます。また、「食育」に関する授業の実施で「食事の重要性」等を身につける教育を支援します。				
事業内容	嘉麻市内全小・中学校で、完全給食を実施しています。衛生管理の徹底を図るために、施設の改修及び調理員を対象とした衛生管理研修を実施しています。 食育に関しては「食育の日」「食育月間」はもとより、年間を通じて学校毎に実態に応じた取組みを行っています。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 ・地産地消を継続推進し、利用率の向上をめざします。 ・安全・安心な給食の提供を行うため、保健所等による衛生管理立ち入り調査にて指摘された事項について対応していきます。 【課題等への取組】 ・地元直売所を活用し、地場産の利用率向上に努めました。 ・保健所指導により、全ての調理場の手洗い器に温水が出るように改善し、給食センターではトイレの改修を行い、衛生管理の更なる徹底を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 年間給食回数185回を基準に実施し、1日約3,400食の調理提供を行いました。 地産地消の推進に関しては、例年同様に地元直売所を通じ、地場産の利用に努め、地場産利用率29.9%で前年度に比べ14.3ポイント上昇しました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	嘉麻市内全小・中学校において完全給食を行いました。安心・安全な学校給食の実施のため、衛生管理の徹底を図り、地場産の利用の向上に努めました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と課題	引き続き、安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図り、食物アレルギーの対応についても適切な対応を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。				
『評価委員の意見』 ・「給食とってもおいしい」と言う子どもの声を思い出します。 ・地場産利用率アップ、すばらしいです。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	【29】学校給食費算定及び収納事業（学校教育課：学校給食係） (予算：506千円 決算：365千円)				
目的	学校給食費は賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安心・安全な食材の購入等を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を確保するために、徴収業務を行います。				
事業内容	栄養バランスのとれた食材の購入ができるよう予算管理を行っています。 受益者負担の公平性を確保するため、給食費徴収業務を行っています。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 保護者の公平な給食費負担を目指し、収納率の向上に努めます。 【課題等への取組】 収納率向上への取組みとして、未納通知や催告書を発送するとともに、訪問による徴収も実施しました。高額未納者に対しては、納付誓約書や児童手当からの引去りの同意書の提出により、分割納付や児童手当からの引去りを実施しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 未納通知や催告書の発送、訪問徴収等収納率向上への取組みを実施しました。 現年度(H26)の収納率は98.16%で前年度に比べて0.12ポイント、過年度の収納率は23.22%で2.45ポイント下降しました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	栄養バランスのとれた安心・安全な食材の購入を行うための算定を行いました。また、受益者負担の公平性を図るため、徴収業務を行いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。				
『評価委員の意見』 ・保護者への給食の大切さをもっと啓発するといと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(3)家庭・地域・学校における読書活動推進

事業名 (予算・決算)	【30】読書活動推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：33,509千円 決算：32,413千円)				
目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。				
事業内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受け入れ、貸し出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書13名を配置し、学校図書館の整備、充実を図っています。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 全小・中学校のへの図書司書の配置による、継続した図書館の環境整備が必要です。 【課題等への取組】 本年度も各小・中学校に図書司書が配置できる人数を確保しました。各学校において、学校図書館の環境整備や図書司書の効果的な活用に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 各小・中学校に図書司書が配置できる人数を確保できたことにより、図書館の整備や読書活動の充実が図られています。また、朝読書や読み聞かせ等の読書活動を行うなど、組織的、継続的な読書活動の推進に努めています。				
第2次教育アクションプランのまとめ	すべての学校に図書司書を配置し、図書館教育担当教諭や司書教諭と連携しながら、効率的・機能的な図書館運営の推進が図られました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	今後も、図書館の整備や読書活動の充実とともに、図書館が資料センターの機能を発揮することが求められています。そのためにも、蔵書の整備に努めます。また、児童生徒一人当たり年間60冊以上（週2冊以上）の貸出冊数を指標とします。				
『評価委員の意見』 ・読書離れがある中、読解力も低くなっているのではないかと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4)いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[3 1] 適応指導教室（れすとぴあ）推進事業 (学校教育課：教務係／指導係) (予算：7, 840千円 決算：7, 129千円)				
目 的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組めます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
事業内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 児童生徒が在籍する学校と関係機関等との連携を強化し、不登校児童生徒数を減少させることが必要です。 【課題等への取組】 学校と嘉麻市教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組む、不登校傾向、不登校の児童生徒の学校復帰を支援するため、集団生活への適応指導、教育相談等を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 適応指導教室に4名の適応指導教室指導員兼相談員を配置し、適応指導、教科指導、教育相談等を行いました。平成26年度は適応指導教室（れすとぴあ）に9名の児童生徒が在籍し、そのうち2名が学校に復帰しました。中学3年生は2名在籍しており、学校復帰はなかったものの、適応指導教室での教科学習等の指導の結果、2名とも高校へ進学しています。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	学校と嘉麻市教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善の取組により、適応指導教室への通室、チャレンジ登校や学校復帰ができるようになってきました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後も継続して、学校と嘉麻市教育センターが連携しながら取組を進めていきます。特に、中学校の生徒については、高等学校へ進学するための学力保障等の充実を図ることが必要です。また、不登校児童生徒に対し、適応指導教室に通室できるよう働きかけを行う必要があります。				
『評価委員の意見』 ・ 不登校は子どもの心の表現の1つであり、不登校が無くなればよいということではないと思います。 ・ れすとぴあが存在意義をもっと一般の方に周知する必要があること、不登校の子どもたちの人権を守るためにも不登校のマイナス面だけでなく、不登校への理解を得るための啓発活動の必要性を感じます。 ・ 不登校の子どもがいる限り、れすとぴあの存続をお願いします。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4)いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	【3 2】教育相談推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：5, 484千円 決算：4, 865千円)				
目 的	いじめや不登校、暴力行為などの問題行動を起こした児童生徒に対して、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーがカウンセリングを行い、スクールソーシャルワーカーが中心となって関係機関と連携をとりながら問題解決にあたります。				
事業内容	嘉麻市教育センターにスクールカウンセラー（臨床心理士）とスクールソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）を配置し、不登校等の未然防止に向けて支援を行います。また、必要に応じて、保護者や教職員等の教育相談を実施します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 児童生徒が在籍する小中学校間の連携を強化し、不登校児童生徒数を減少することが必要です。また、年々複雑化している教育相談に対する対応が必要です。 【課題等への取組】 学校と嘉麻市教育センターが連携し、スクールカウンセラーによる教育相談、スクールソーシャルワーカーによる関係機関との連携により、いじめ・不登校の解消、未然防止に取り組みました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 平成26年度の嘉麻市教育センターにおける教育相談件数は42件（来所16・電話5・訪問21）でした。その他、学校からの要請を受け、児童生徒や教職員を対象に教育相談を行っています。また、いじめ・不登校への対応については、学校だけでは対応が難しい場合もあり、スクールソーシャルワーカーを中心として、関係課や児童相談所等の関係機関と協力しながら、問題解決にあたっています。 平成26年度はいじめの認知件数は6件であり、減少傾向にあります。また、不登校児童生徒数は77名であり、前年度比1名増でした。				
第2次教育アクションプランのまとめ	学校と嘉麻市教育センターが連携し、いじめや不登校傾向の児童生徒への早期発見、早期対応、さらに、未然防止の取組みを進めることができました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	いじめ・不登校の問題は、年々複雑になっており、今後も専門的知識をもった職員の助言等が必要です。また、教育相談についての組織的な体制を整え、学校を支援していくことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・いろいろな問題は、学校全体の共通問題として捉えて考えなければいけないと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4)いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[3 3] 学校支援相談員（旧: ひきこもり訪問指導員）配置事業 (学校教育課：教務係／指導係) (予算：7, 265千円 決算：7, 083千円)				
目 的	家庭にひきこもりがちな不登校児童生徒に対して、児童生徒の抱える心の問題を理解し、積極的に取り組む意欲を有する訪問指導員を派遣し、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安を解消し、適応指導教室への通室及び学校復帰を支援します。				
事業内容	不登校及び不登校傾向の児童生徒宅を訪問し、適応指導教室への通室及び学校復帰を支援します。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 学校と嘉麻市教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。 【課題等への取組】 現在学校支援相談員を3名配置し、家庭訪問等を行うことで、適応指導教室への通室及び学校復帰への支援を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 現在学校支援相談員を3名配置し、家庭訪問等の支援を行うことで、適応指導教室への通室、学校復帰者の増加、欠席日数の減少等、不登校解消に向けての成果は出ています。特に、平成23年度までは増加傾向にあった不登校児童生徒数ですが、平成23年度：119名、平成24年度：109名、平成25年度：76名、平成26年度77名と減少傾向にあります。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に積極的に取組み、不登校児童生徒数を減少させることができました。				
第3次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	今後も不登校解消の取組みを組織的に行う必要があります。また、各学校にも3ヵ年の目標設定をもたせ、平成29年度までには、35人以下をめざします。				
『評価委員の意見』 ・子どもを取り巻く社会の状況はとても複雑で、社会との関わりを絶ってしまう子どもたちがとても心配です。少しでも、社会や人と関わるための支援は、とても重要です。子どもの心に寄り添う指導を継続していただきたいです。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

(3) 家庭・地域の教育力と高いも支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	〔34〕 地域教育資源活用事業（学校教育課：教務係／指導係） （予算：1,009千円 決算：969千円）				
目的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の創意を生かした教育課程を編成し、地域社会の現状を踏まえ、児童生徒の学習に協力することのできる地域の人材や施設を生かし、教育活動を行います。				
事業内容	専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で、たいへん効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を推進します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 各学校の創意を生かした教育課程の編成及び実施に向け、ゲストティーチャー等の地域教育資源を活用した学習をより推進する必要があります。 【課題等への取組】 市内の学校に人材バンクの積極的な活用を啓発することにより、各学校の特色にあわせた外部講師を招き、教育活動を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の特性を生かし、農業体験や物づくり指導を受けるなどの、地域教育資源を活用した教育活動を展開することができました。特に、専門的な知識はもちろんのこと、これまでの経験は、児童生徒自身に今後の生き方を考える上で大変有効です。しかし、継続的な活用は不十分であり、探求的な学習、又は、問題解決的な学習に至っていない現状があります。				
第2次教育アクションプランのまとめ	地域の特性や学校の実態に応じて、地域資源を活用した学習展開が図られるようになってきました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	今後も人材バンクの積極的な活用を啓発するとともに、年間指導計画の見直し及びゲストティーチャーの活用計画の作成、実施、評価を行える意図的・継続的な学習を推進する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・事業後の継続的な活用ができないとあるが、活動すればいつか生きる力になるのではないかと思います。 ・生涯学習課と連携協力し、人材バンクの活用をするとよいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	【35】学社連携融合事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	家庭、学校、地域が子どものために連携し、効果的に事業を取り組めるよう良好な関係づくり、意識の共有・向上、共同で行う事業の推進を目指します。				
事業内容	学校、家庭、地域が一同に介し、子どもたちの健全育成のために意見交換を実施し、その中で出された課題や意見に対し、具体的な事業にまで取組みます。 (通学路対策、あいさつ運動など)				
H26年度の課題と取組	【課題等】 学校・地域・家庭ともに、意見交換を行なうものの、課題の取組などについて、具体的な役割分担まではできていません。 【課題等への取組】 意見交換を行う中で、具体的な役割分担まで掘り下げた協議を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 行政主体ではなく、学校・地域・家庭が主体的に取り組むことができました。 事業を効果的に推進できたとともに、実際に事業に取り組む上で、お互いが「できること」「できないこと」について、意識の共有に繋がりました。また、地域によって課題が違う状況にありますが、地域ごとの活動により課題解決に向けた取組みができていていると思います。				
第2次教育アクションプランのまとめ	学校現場のニーズや、地域における課題を共有するため、学社連携会議を重ね、課題解決に向けて活動してきました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	学校、家庭、地域が連携し、子どもの健全育成に努めるとともに、地域の教育力向上のため事業に取り組んでいきます。また、地域ごとの課題について差異があるので、具体的取組みを検討します。				
『評価委員の意見』 ・行政区長会、公民館長会等を一堂に会して、すべての住民が学校と地域を結ぶパイプを深めるとよいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	【36】家庭教育支援事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：403千円 決算：391千円)				
目的	乳幼児から思春期の子どもを持つ保護者に対し、さまざまな学習の機会や情報を提供することで家庭の教育力の向上を支援します。				
事業内容	家庭教育支援講座、親子がふれあえるミレーパーク講座、学校等へ家庭教育に関する情報提供、地域における家庭教育支援事業を実施します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 スマホ等の普及のため、子どもたちのトラブルが増えていますが、実態の把握は進んでいません。子どもたちの状況を把握するため、極細やかな情報提供や実態調査の必要性があります。 【課題等への取組】 子どもたちの状況を知るための実態把握はできませんでしたが、極細やかな情報提供や、メディア接触が少しでも減るような啓発活動や各種講座を保・幼・小・中学校などで行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 子どもの学力向上や健全育成には、家庭の教育力が基盤となります。家庭の教育力向上のために、多様な講座や情報提供を行い、多くの市民に対し、家庭教育支援を行う事が出来ました。 また、メディアについての啓発活動を随時行いました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	男性保護者向けに、子育てに関する情報や学習機会の提供を行う事が出来ました。また、多くの保護者が参加する講座において、家庭教育に関する情報提供の回数が増えました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	スマホ・SNSの普及のため、子どもたちのトラブルが増えている状況にありますが、実態の把握は進んでいません。子どもたちの状況を知るためにアンケート等の実施が必要です。 その一方、電子メディアの普及から起こる子育て家庭の孤立防止のための講座とその支援体制の整備が必要です。また、メディア接触が減る取組みの講座等を実施し、啓発していく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・子どものトラブルの実態把握は早急をお願いします。 ・非常に良い事をされているので、続けてもらいたいです。 ・メディアの話等の講習会、研修会があるときは宣伝をしてもらいたいと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[3 7] 青少年健全育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 3, 5 1 2千円 決算： 3, 2 1 1千円)				
目 的	青少年の健全育成のための啓発活動並びに関係機関との連携・協力を図り、青少年の非行防止に努めます。				
事業内容	嘉麻市少年相談センターとして、関係機関と連携しながら少年並びに保護者等からの相談に対応しています。また、補導委員を委嘱しており、その方々への研修会の実施や不審者対策などを共に行いました。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 市民の方に対して、嘉麻市少年相談センター、補導委員の認知度が不足しています。また、補導委員の高齢化も進み、中堅層の確保について、嘉麻警察署や補導委員と協議が必要です。 【課題等への取組】 市報や嘉麻市ホームページなどを活用して、活動のPRを行いました。また、学校や地域の意見交換に補導委員を招き、補導委員としての日頃の活動をお話していただきました。 補導委員の中堅層の確保について、嘉麻警察署とは具体的な協議は行っておりませんが、今後の検討課題であります。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 嘉麻市少年相談センターが行う事業については、子どもたちを地域全体で見守るために必要性は高いと思います。補導委員をはじめとする地域の方々と共に、子どもが安心して成長できる地域づくりを行います。 効率性については、具体的に補導委員と学校をはじめとする関係団体との連携づくりが不十分だったため、連携できていなかったところに課題が残りました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	嘉麻市少年相談センターに相談員を配置し、児童生徒及び保護者等からの相談に対応しました。また、少年補導員連絡協議会にて、資質の向上のため、県の研修会や独自の研修会を開催しました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	嘉麻市少年相談センター業務の充実を図り、少年非行の防止と適切な指導に努めていきます。 少年補導員連絡協議会の資質の向上を図るため、研修会等を実施し、適切な巡回指導・街頭指導ができるよう努めます。				
『評価委員の意見』 ・補導員が地域的に偏りがあると思います。ある程度大きな行政区に置いていくような形をとってもらいたいと思います。 ・補導員の人選方法と資質向上を図るための研修会等を実施してはどうかと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1)生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算・決算)	【38】社会教育関係団体等育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	社会教育関係団体等の育成とその活動の充実に努めるため、各社会教育関係団体等の自立支援及び人材（指導者）の育成を行います。				
事業内容	行政協力を目的に設立された社会教育関係団体をはじめ、各種の関係団体が自主的な会の運営や事業展開が図れるよう指導助言等支援を行っています。 また、社会教育関係団体と連携し、お互いが役割分担を行うなど効率的に事業を展開することができました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 社会教育関係団体を始めとする地域団体間の連携は、まだまだ不十分であり、互いの活動の負担軽減に繋がるよう、連携がより一層望まれます。 【課題等への取組】 社会教育関係団体を始めとする地域団体がお互いに助け合えるよう、嘉麻市青少年育成住民会議・嘉麻市文化協会・嘉麻市子ども会指導者連合会等を中心に支援しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市の地域づくり、教育力向上のためには、社会教育関係団体を始めとする地域の力が必要です。その活動が自主的かつ効率的に運営ができるよう支援をしてまいりました。 継続的な支援のためには、行政のみならず、母体となる団体による支援が必要であると思います。その母体となる団体と連携し、地域全体が効率的にかつ継続的に活動できるよう取り組む必要があります。				
第2次教育アクションプランのまとめ	社会教育関係団体と連携し、お互いが役割分担を行うなど効率的に事業を展開することができました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	様々な地域の団体で構成されている青少年育成住民会議と連携し、地域の団体が効果的に自主運営できるよう、支援を行っていきます。 社会教育関係団体を始めとする地域団体間の連携は、まだまだ不十分であり、互いの活動の負担軽減に繋がるよう、連携がより一層必要です。				
『評価委員の意見』 ・ 団体が負担を感じれば、連携は生まれませんと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1)生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算・決算)	[3 9] 社会教育関係団体活性化補助事業（生涯学習課：社会教育係） （予算： 7, 4 5 8千円 決算： 7, 4 5 3千円）				
目 的	生涯学習の推進や住民主体の地域づくりの促進に努めます。				
事業内容	団体の申請に基づき、稲築吹奏楽団、嘉麻市青少年育成住民会議、いなつき山笠実行委員会、民俗的伝統行事保存団体3団体（碓井地区：飯田地蔵祭、西郷奉納相撲、上臼井地区神楽）、嘉麻市子ども会指導者連合会、嘉麻市文化協会、嘉麻市P T A連合会の1 0団体に補助金を交付します。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 各団体ともに団体の活動目的に沿った活動を行っているものの、団体同士が連携し、嘉麻市全体の地域づくりには、十分に寄与できていないと考えます。 【課題等への取組】 補助金についてのみならず、今後の団体の活動等について打合せを行い助言を行う事が出来ました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 交付要綱に則った補助金交付も含め、社会教育関係団体が、自主的に運営するための支援を今後とも行っていく必要があります。 事業の効果、効率性に関しては把握しづらい部分がありました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	補助金の交付で、市民の多くに広く生涯学習の機会を提供できました。				
第3次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	ヒアリング等とおし、交付団体が補助金交付要綱の目的に本当に合致しているか再度見直す必要があります。また、補助金交付の時期等、団体の活動に則した事務手続きを考える必要があります。				
『評価委員の意見』 ・地域色の濃い団体の把握は難しいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A:期待通り、B:概ね期待通り、C:課題あり、D:事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 0] 社会教育施設整備事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：73,339千円 決算：71,952千円)				
目 的	社会教育施設が市民の生涯学習の拠点となるよう、利用者のニーズに応じた計画的な保守管理を行い、施設を運営（維持管理）します。				
事業内容	所管施設の管理として、なつき文化ホール・嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ・上山田住民ホール・山田市民センター・下山田小学校白馬ホール・山田生涯学習館の運営、維持管理を行います。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 生涯学習の拠点として、社会教育施設の利用を呼びかけるとともに、修繕等を適切に実施し、効果的な維持管理に取り組むことが必要です。 【課題等への取組】 子ども会事業、通学合宿事業、青少年健全育成事業等の教育委員会関連事業を社会教育施設で開催するとともに、市民の生涯学習の推進のため、施設の管理運営を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の方々が生涯学習に取り組めるよう、適切な施設管理が必要です。しかし、施設の老朽化のため、施設運営以外に、修繕等の突発的な支出があり、効果的・効率的な施設管理が難しい状況です。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	施設及び備品の管理・改修・整備・保守については、随時行っており、市民サービスが低下しないように実施してきました。 耐震補強については、嘉麻市耐震改修促進計画に基づき、市内にある公施設全体での検討がなされており、担当課にて協議中であります。				
第3次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	生涯学習の拠点として利用しやすいよう効率的な維持管理運営を行うとともに、住民のニーズに応じた、計画的な施設整備が必要です。 また、行政改革に伴う施設の見直しも今後の検討課題であります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 1] ボランティア人材バンク事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	知識、技能、資格等を有する人に人材バンクに登録してもらい、生涯学習活動支援や地域づくりに貢献していただきます。				
事業内容	仕事や趣味などを通じて身につけた知識・技術・資格等を有する人に名簿登録をしていただき、学校や地域のあらゆる活動場面で、その培った経験、技術等を活かし地域に還元する『知の循環型社会』の構築を目的としています。なお、社会教育係に配属されている地域活動指導員が人材の発掘、ボランティア活用依頼先とのコーディネートを行います。 また、26 年度は生涯学習課事業等でも活発に活用し、より多くの方々が活躍できるように取組みました。 登録者数 328 名 143 団体 派遣者数 128 回 262 人 対象者数 13,041 人（人材バンク事業で係わった人数）				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 学校や地域への派遣がまだまだ地域により差異がありますが、利用者や登録者が気持ちよく活動できるように、より積極的な周知活動や関係づくりが必要です。 【課題等への取組】 学校が利用しやすいよう、各学年に応じた活用方法や特別な活動をした学校の事例などを入れた人材バンク通信を配布し、学校の利用促進に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 地域の方々の教育力向上、子どもたちと地域の方々のふれあい、子どもたちへの特別な授業の実施など、様々な効果があり、人材バンク事業の必要性は高いと思われます。 効率性につきましては、学校だけでなく、地域も含めて、人材バンク派遣者が活躍しやすいように、また受け入れられやすいよう周知活動が必要でした。				
第 2 次教育 アクションプランの まとめ	人材バンク登録者が減少傾向にあります。派遣回数、対象者数は増加しています。ただ、学校だけでなく、地域や関係団体等へのニーズの把握や周知活動が必要です。				
第 3 次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	人材バンク登録者が減少傾向にあるため、地域の人材育成・発掘に努める必要があります。また、関係機関や地域の人とのつながりを作り、地域ボランティアによる、「知の循環型社会」の構築に努めます。				
『評価委員の意見』 ・人材バンクの分野が偏っていると思います。見直しをして、登録者にも情報提供をお願いします。 ・登録者の研修会、発表会等を行うとよいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	【42】生涯学習推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：33,310千円 決算：32,241千円)				
目的	職員ならびに地域活動指導員の資質向上を図り、市民のニーズを把握し、生涯学習の推進を図ります。				
事業内容	社会教育委員会議及び課内会議等を開催しました。職員、地域活動指導員の研修会や社会教育主事の養成など関係職員の資質向上に努めます。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 職員数適正化計画により、各課の職員数が削減される中、社会教育に精通した人材の育成を行うことで、嘉麻市の社会教育の向上を目指します。 【課題等への取組】 生涯学習・社会教育の推進のための研修会に積極的に参加し、職員及び地域活動指導員の資質の向上に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 生涯学習・社会教育関係の研修会への参加は、積極的に行いました。その研修を受け、少しでも嘉麻市の地域づくりや人づくりに還元できるような事業の展開やボランティアの育成に努めました。 今後も長期的な視野をもち、継続して事業を行っていきます。				
第2次教育アクションプランのまとめ	人事異動や職員適正化計画により、人員削減等がありましたが、生涯学習・社会教育に精通した人材育成を計画的に行うことで、生涯学習の推進を図るとともに、各種事業の整理を行いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	行政改革による人員削減や事業効率が求められる中、職員及び地域活動指導員の資質の向上に努め、地域や市民への生涯学習・社会教育活動を推進します。				
『評価委員の意見』 ・人を育てるのが一番難しいと言われています。地域の掘り起こしをお願いします。 ・地域活動指導員のみなさんは、地域で大変頑張っておられます。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 3] 青少年体験活動推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：875千円 決算：849千円)				
目 的	様々な子どもたちの体験活動を通して、生きる力や表現力の向上、また基本的な生活の確立を目指します。				
事業内容	子どもの基本的生活習慣の確立を目指し、実行委員会と連携実施している『通学合宿事業』、小学生が題材に沿ってエッセイを書く『わたしのエッセイ事業』、次世代のリーダーの育成を図る『ジュニアリーダー研修会』など、子どもの体験活動を実施しました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 社会教育係だけではなく、生涯学習課で連携し、子どもの体験事業を実施していく必要があります。 【課題等への取組】 各種事業とも、ボランティア団体との連携により実施しており、公民館を拠点に活動を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 子どもたちの生きる力などの習得のためには、様々な体験をさせることが必要であります。しかし行政が主体的に取り組むのではなく、地域の方々にも積極的に関わって協力していただくことで、子どもたちへの効果は高まると思います。 また、社会教育係だけではなく、公民館等とも連携し、より効果的な事業展開ができるものと考えられます。				
第2次教育アクションプランのまとめ	各地区で展開されている「通学合宿」や子ども会活動により、青少年の人格形成に大切な少年期の生活体験や社会奉仕体験、自然体験の促進がなされたと思います。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	実行委員会や子ども会などと連携を深め、その中で、ボランティアを募るなどより多くの地域の方とともに、生活体験や自然体験等の活動を通して、地域リーダーとなる人材育成を推進します。				
『評価委員の意見』 ・ やっと、通学合宿の広がりが見えてきたと思います。 ・ 次世代リーダーの養成のために「通学合宿」のサポーター、「子ども会」のジュニアリーダーは必要です。立派な大人になって、嘉麻市を元気にさせると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 4] 公民館・分館等の連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：37,777千円 決算：34,668千円)				
目 的	各地区公民館の利用者が安心して気持ちよく学習等が行われるよう、また、地域の拠点として機能するよう、施設の維持管理を行います。				
事業内容	分館及び自治公民館の情報共有と協同を図るとともに、将来の嘉麻市公民館像など意見交換の場を確保しながら、共通理解を深め、地域間の交流が活発に行われることで、組織の統一化を図ります。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 嘉麻市に似合った基本方針を明確にし、組織強化を図っていく必要があるとともに、経年劣化、耐用年数を超えた施設が多く、補修等必要な施設から優先的、計画的に改修を行い、安心して利用できるよう努めるとともに、各地区の活動等の支援を行いながら、地域の活性化を図っていく必要があります。 【課題等への取組】 地区公民館、分館、自治公民館の修繕や改修工事を計画的に行うとともに、情報の共有や協同を図るための研修会等を開催しました。 各地区館長代表者会議 3回、 各地区館長会議 5回 福岡県公民館大会 18名参加、福岡県公民館実践交流会 7名参加 筑豊地区公民館研修会 38名参加、九州地区公民館研究大会 12名参加 補修・修繕（地区・分館・自治）26件、改修工事（自治公民館）4件				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 施設の老朽化は否めない現状ではあるものの、今後の組織体系については、統一化を図りながら地域コミュニティを形成していかななくては、地域の活性化は図れないと考えます。ただ、各地区における実情を改善していくには、より一層の労力を求められています。今後ますます変化していく社会情勢に対応していくために、研修会や館長会議などを通して、調整を図っていくことに努め、組織体系の統一化、また、地域コミュニティの再構築に努めていきます。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	施設の維持管理については、優先的、計画的に行ったものの、行政改革に伴う、公の施設の統廃合等については、各地区の実情の違いから調整を図るまでには至っていません。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	各地区公民館・分館は、地域住民の活動や生涯学習の活動の拠点であり、地域住民に対し、多様な生涯学習の機会を提供するとともに、地域課題の把握及び問題解決に努めます。				
『評価委員の意見』 ・組織の統一化を早く図ることを期待します。 ・はっきりと市としての方向性を出してほしいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 5] 分館及び自治公民館等活動費補助事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：8, 1 4 2千円 決算：7, 3 3 8千円)				
目 的	分館及び自治公民館への各種補助を行い、地域コミュニティの拠点づくりを図ります。				
事業内容	分館運営費補助金、自治公民館活動費補助金、自治公民館修繕料補助金、自治公民館付属施設設置補助金を交付し、様々な学習の場が提供できるよう地域コミュニティの拠点としての運営を支援します。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 分館運営費補助金・自治公民館活動費補助金の算出基準の見直しや町内公民館に対する火災保険料の補助についての要望があり、統一した見解の下での改善策を図っていく必要があります。 【課題等への取組】 各地区館長の代表者を中心に補助金の見直しや組織体系についての協議を重ね、検討しました結果、2 7 年度については現行どおりとし、2 8 年度以降は継続して審議していくこととなりました。 分館運営費補助金 8 館 3, 723, 000 円 自治公民館活動費補助金 5 1 館 3, 614, 100 円 自治公民館修繕料補助金・付属施設設置補助金交付件数 0 件				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 市の方向性として、ある一定程度の範囲による組織編制を行うことで、地域間の統一性を図ることを提案したものの、各地区の実情による歴史的経緯もあり、受け入れてもらうことが困難であるとの意見から、分館、自治公民館といった現行どおりの2 本立ての組織体系のまま進めていかなくてはならないと考えます。しかし、活動内容や施設管理等の面で地域間の差が生じているのは否めないため、改善へ向け地元関係者との十分な協議を継続して努めていきたいと考えます。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	公民館活動や運営に対し各種補助を行い、地域コミュニティ（地域づくり）の拠点としての運営の支援を行っていますが、行政が管理している施設と町内会にて管理している施設とがあり、地域間での差が生じています。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後の公民館のあり方としての方向性を明確にすることが先決と考えます。また、各種補助の交付基準等の見直しも同時に協議を継続していかなければならないと考えます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 6] コミュニティ活動支援（生涯学習課：中央公民館係） (予算：209千円 決算：98千円)				
目 的	地域と公民館の「協働」による公民館運営の視点から関係団体や公民館を支える人たちと、公民館の新たな可能性を模索し、これからの公民館づくりを目指すネットワークの構築を図ります。				
事業内容	地域ぐるみで青少年健全育成に努めるとともに、地域のつながりを強め、地域力の向上を図ることを目的に行われる地域の伝統文化や、世代間交流事業等の活動を支援します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 嘉穂地区の小学校統廃合による影響がないよう対策や支援を行いながら、地域ぐるみで青少年健全育成に努めるとともに、地域の大人が子どもと関わることで互いにつながりが深まり、地域力の向上が図られることから、地域・学校・行政の協働での事業の推進や子どもと地域の世代間交流の推進を継続的に努めます。 【課題等への取組】 公民館は高齢者が使用するイメージの固定化を脱却するとともに、青少年健全育成を推進し、次世代育成、後継者育成を図りながら組織強化を昨年に引き続き努めました。 交流事業支援数 6件 ふるさと探検隊 延べ10回 381名参加 ときめき学習（大隈・宮野・足白・千手） 延べ18回 811名参加 ひろば活動（大隈・宮野・足白・千手） 延べ14回 559名参加				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 公民館運営には地域住民の参画なしには考えられず、現在の公民館を取り巻く状況を考慮しても、ますますその重要性が上げられます。また、地域コミュニティを構築していく上でも、公民館関係者及び職員の資質向上は必要不可欠であります。 ひろば事業をはじめとする青少年健全育成事業は、地域・学校・行政の協働での事業を推進していく必要があります、組織体系強化はもちろんのこと、統一した認識の下での取組みが図られなくてはならないと考えます。				
第2次教育アクションプランのまとめ	地域ぐるみの青少年健全育成については、各地区様々な事業展開が行われていますが、関係部署の相違から、統一した認識の下での展開が図られているとまでは言えません。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	課内関係部署の連携を密にし、統一した認識の下での取組みを支援していくことに努めながら、地域のつながりを強め地域力の向上を図っていきたいと考えます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 7] 公民館事業（生涯学習課：中央公民館係） (予算：1, 880千円 決算：1, 559千円)				
目 的	地域住民の生活に根ざした教育・文化に関する各種の事業・講座を行い、住民相互の交流と教養の向上、健康増進など生きがいづくりを行います。				
事業内容	市民の生涯学習活動の発表の場として、また、活性化を図るため、地域住民の集いの場、交流の場を地域住民とともにを行います。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 各種事業や講座を通してのふれあい、生涯学習の推進（住民主体での人づくり、まちづくりの展開）を他の関係機関・部署と連携した事業の推進に努めます。また、講座を通して人材育成を図るよう努めます。 【課題等への取組】 文化協会各支部の関係者と協議し、講座の開設から人材育成を図ろうと努めました。しかし、会員の高齢化、新規会員の減少に伴う組織の衰退が避けられない中、受け入れまでに至らないのが現状であります。 〔中央公民館主催事業〕 手づくり講座 延べ5回（参加者数72名） 夢まつり（参加者数150名）、クリスマス会（参加者数60名） 成人式（対象者数403名、参加者数341名（出席率84.6%）） 〔地区公民館主催事業〕 青空フェスタ（参加者数300名） サルビア大学 延べ10回（参加者数372名） 盆踊り講習会（嘉穂・稲築・碓井）延べ6回（参加者数100名） 3ちゃんぐラウンドゴルフ大会 山田地区4館（参加者数96名）				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 公民館講座をはじめとする各種事業は、生涯学習の一環であり、多様な学習機会を提供することにより、個々に学ばれたことが市民参画という形で地域に還元され、地域コミュニティの活性化につながると考えています。 公民館利用団体との連携した講座の開設は、団体会員の高齢化、新規会員の減少に伴う組織の衰退化を避ける一つの支援策となると考えていますが、受け入れることが団体にとって負担が増すこととなるのではと不安な意見も寄せられています。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	教育委員会組織の再編を行いながら、地域全体で取り組めるような各種事業の展開を図るよう努めていかなければならないと考えます。また、関係機関・部署と連携を密にしながら更なる事業の推進に努めます。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	講座内容、対象者、募集方法など明確にしたチラシ等を作成し、公民館は高齢者が使用するといった固定的なイメージを取り除きながら、市民への周知徹底に努めるとともに、地域活性化をはじめ、地域の架け橋となるべく役割を担えるよう努めます。				
『評価委員の意見』 ・実行委員会形式になった成人式はよいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3)図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	【48】図書館施設管理運営事業（生涯学習課：図書館係） (予算：93,687千円 決算：92,297千円)				
目的	図書館を適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる場を提供することを目的とします。				
事業内容	施設の維持管理、資料の保存、システムの安定稼働のための維持管理を行い、資料提供サービスの円滑化を図っています。 ・施設及び図書館システムの維持管理 ・資料の選書等の管理 ・配本車の巡回 ・移動図書館車の運行 ・図書館だよりの発行 等				
H26年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市の図書館に相応しい運営方法や組織体制の充実について、総合的に検討を進める必要があります。また、図書館未利用者への積極的なPRが必要です。 【課題等への取組】 図書館システムの安定運用及び利用者の利便性の向上を目指し、随時見直し、改善を図っております。また、平成26年度からフェイスブックによる情報発信を行う等、SNSを活用した情報発信を強化することで、今まで事業に参加されたことのない利用者に向けての情報発信が可能となりました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 4つの図書館が「地域の知の拠点」として、赤ちゃんからお年寄りまで、全ての嘉麻市民が気軽に利用できる施設となっています。ウェブ予約や配本車の活用等、利用者のニーズに対応し、各図書館相互の資料をどこの地域においても貸出・返却ができる環境を整え、加えて移動図書館車の活用により、今まで図書館に来ることのなかった利用者、特に子ども達の利用が増加しています。				
第2次教育アクションプランのまとめ	市民一人あたりの貸出冊数は、平成26年度で5.7冊と目標の7冊には及びませんでした。利用者数が少しずつ増加していることから、今後も継続して図書館を適切に管理運営し、更に多くの市民の方々の利用に繋がるような事業を展開し、読書習慣の定着化に向けた取組みが重要と考えています。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	図書館利用者及び貸出冊数の増加のための取組みとしては、移動図書館車の更なる活用や、学校図書館との連携等が有効と考えています。図書館司書と学校司書の資質向上を図り、連携を深めることで市内の児童生徒の利用を促進していきたいと考えています。 課題としては、利用者が固定化している現状がありますので、図書館を積極的にPRすることで、新たな利用者の獲得を図ります。				
『評価委員の意見』 ・移動図書をもっと多くして利用してもらうには、もう一台移動車が必要だと思います。 ・公民館等に併設している図書館の駐車場の確保をお願いします。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3)図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	【49】読書活動推進事業（生涯学習課：図書館係） (予算：987千円 決算：850千円)				
目的	おはなし会、読書講演会等を開催することによって、市民の読書活動を推進し、図書館利用を促進することを目的とします。				
事業内容	赤ちゃんからお年寄りまで、様々な年代に対応した読書活動推進事業を実施しています。 ・おはなし会 ・工作会 ・古典文学講座 ・読書講演会 ・ブックスタート事業				
H26年度の課題と取組	【課題等】 平成24年度に策定した「嘉麻市子ども読書活動推進計画」に基づき、各種事業の内容を充実させ、参加者の定着化や増加を目指すとともに、図書館の更なる利用促進を図る必要があります。 【課題等への取組】 絵本の読み聞かせを中心として、子どもたちが興味を引くような事業を実施しました。また、26年度では図書館事業を公式フェイスブックにより積極的にPRを実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 図書館事業の参加を通じて、その後の図書館利用や読書を始めるきっかけとしていただくために、事業内容については工夫を重ねています。事業参加者と図書館職員との交流が深められ図書館利用に繋がっています。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	各種イベントへの新たな参加者を呼び込むため、SNSを活用した積極的なPRを実施することで、新たな参加者もでてきています。今後図書館が市民にとってより親しみやすい場所となるように、事業内容やPR方法等、利用者のニーズに対応した方法を検討していくことにより、更なる読書活動の推進を図ります。 なお、ブックスタート事業につきましては、関係各課の協力のもと平成26年度では実施率100%とすることができました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	おはなし会やブックスタート事業等の内容を充実させ、様々な読書推進事業を行い、参加者の増加を目指します。また、参加していただいた方々が、その後の図書館利用に繋がるようなフォロー体制を整え、利用者増を図ってまいります。課題としては、参加者が固定化してきていることや、参加者が減少傾向にあることが挙げられますので、事業内容を充実させることはもとより、積極的なPR活動が必要と考えています。				
『評価委員の意見』 ・市民が参加しやすい事業をお願いします。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3)図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[50] 図書館ボランティア養成事業（生涯学習課：図書館係） (予算：29千円 決算：29千円)				
目的	図書館事業の推進に必要な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。				
事業内容	ボランティア養成講座の開催、ボランティアサークルの活動支援、嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ・ブックスタートボランティア養成研修 ・子ども読書ボランティア入門講座 ・嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会等）				
H26年度の課題と取組	【課題等】 現存するボランティア団体が高齢化等により、活動が停滞している現状があり、新たなボランティアの養成が喫緊の課題です。講座の受講を通して、ボランティア活動の参加に繋がるようなフォローアップの取組が必要です。 【課題等への取組】 今までのボランティア活動は概ねサークル活動として成り立っていましたが、今後は個々人に応じた形でのボランティア活動に対し支援を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 読書推進を図る上で、ボランティアの協力は必要不可欠です。ボランティアの協力を得ることによって、利用者の裾野を広げることができます。 ボランティアの協力、活動を通じて世代間の交流もできており、充実した事業が実施できています。				
第2次教育アクションプランのまとめ	ボランティア養成講座の参加者のうち約6割が、新規のボランティアとして活動開始されました。今後も、市民の継続的な読書活動推進のため、新規ボランティアの育成及び活動を支援する事業を継続して実施してまいります。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	各種講座を開催することで、既存ボランティアの資質向上を目指し、新規のボランティア開拓を図り、個々人に応じた形でのボランティア活動に対し支援を行うことで、ボランティアとの協働による図書館事業の拡充を図ります。				
『評価委員の意見』 ・少しずつボランティアが育っているのではないかと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(2)子どもの体力・運動能力向上の推進

事業名 (予算・決算)	【52】プロジェクトK（旧: ゴールデンエイジプロジェクト） （スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係） （予算：3, 404千円 決算：2, 871千円）				
目 的	徳島大学大学院 荒木秀夫教授のコオーディネーション理論に基づいた運動指導で、身のこなしだけではなく、豊かな感性、知性を持った子どもたちを育みます。				
事業内容	嘉麻市モデルに即して、各年代の脳と身体の発育・発達に応じたプログラムを構築し、広く普及させます。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 重点施策であるプロジェクトK（嘉麻市モデル）の推進のため、ベースとなるコオーディネーション理論及びトレーニングを広く普及する必要があります。 【課題等への取組】 私立保育園については、昨年度から NP0 活動補助金を活用し、6 園（めぐみ、なつき、あかり、恵大、みどり、明見）が NP0 法人クラブ K による運動指導を導入しており、今年度は新たに私立幼稚園 2 園（稲築、稲築中央）が導入しています。また、碓井ひかり幼稚園が市の出前講座により試行的に運動指導を実施しました。 公立保育所 5 ヶ所については本市の保育士が、小学校 5 校（下山田、稲築西、碓井、嘉穂、牛隈）は、スポーツ推進課職員が運動指導を実施しております。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 本市の重点施策であり、体力テストの結果等運動面だけではなく、生活態度やコミュニケーション能力等の情緒面にもプラスの効果が現れているため、必要性は高いと考えます。 ただし、指導について、スポーツ推進課職員が中心となっていることから、今後の事業展開には、携わった職員以外の指導者の確保が必要となります。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	保育士や教員に、こどもたちが実際に取り組む様子を見て、その変化を感じてもらうことにより、この事業への理解がより深まっていると考えます。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後も嘉麻市モデルに基づき、体系的なコオーディネーショントレーニングの定着を図ります。				
『評価委員の意見					
・学校の方も非常に期待しているが、教職員がここまで上手に各学校で使えるかということが不安視されます。					
・このことが感性を豊かにして子どもたちの学力をつけるという事で、嘉麻市に広がるといいなと期待しています。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A : 期待通り、B : 概ね期待通り、C : 課題あり、D : 事業の見直し要

○ 重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(2)子どもの体力・運動能力向上の推進

事業名 (予算・決算)	[5 3] コーチングスキルアップ (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：6 0 5千円 決算：6 0 5千円)				
目 的	スポーツ指導者等の指導力向上を図ります。				
事業内容	大学教授を講師に迎えて、スポーツ推進委員、保育所等職員、教員を対象とした研修会を実施します。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 重点施策であるプロジェクトKの推進のため、ベースとなるコーディネーション理論を広く普及する必要があります。 【課題等への取組】 職域別にコーディネーション理論の研修会を開催します。 ・稲築西小学校コーディネーション運動研修会（スポーツ推進課対応） ・小学校体育実技研修会 ・小学校体育主任研修会 ・平成2 6 年度コーディネーショントレーニング指導者研修会（スポーツ推進委員、地域活動指導員並びに保育士対象）				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 重点施策であるプロジェクトKを推進するため、指導者育成は必要不可欠であり、取組みによって、幅広く事業への理解を得られていると考えます。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	荒木教授のご協力のもと、総論的なコーディネーション理論の普及は図られていると考えます。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後は、各年代に応じたコーディネーショントレーニングを定着させる必要があります。また、「競技スポーツ推進事業」のひとつとして、競技力の土台となるコーディネーショントレーニングを普及します。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(3)スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	【54】スポーツコミュニティ創造事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目的	市民が身近な場所で運動・スポーツに親しむことができる機会を提供し、スポーツ人口の増加、健康増進を図るとともにスポーツによるコミュニティを創造します。				
事業内容	運動・スポーツ教室の開催及びサークル設立に向けた支援を行うとともに、スポーツに関する情報発信を行うことで、市民の交流の機会を提供します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 定期的に教室は開催できているものの、参加者が固定化してきていることが課題と言えます。 【課題等への取組】 誰もが親しみやすいニュースポーツを新たに取り入れます。また、情報提供のツールとして、嘉麻市ホームページを活用します。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 市民の誰もが身近な場所で運動に親しむことができる環境を提供していくことは、生涯スポーツの観点から重要であり必要性は高いと言えます。 スポーツを通して、参加者に会話や交流が生まれていることから、その効果も高いと考えます。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	教室の実施場所や時間帯など、参加者のニーズに即した教室の開催ができたと考えます。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	今後もより地域に根ざした教室を開催します。また、教室開催の情報だけでなく、スポーツ情報の体系的な整理を行います。				
『評価委員の意見』 ・ニュースポーツを新たに取り入れている割には用具が不足していると思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(3)スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	【５５】体育施設管理運営事業（スポーツ推進課：施設管理運営係） (予算：１５５，２４３千円　決算：１５１，３４２千円)				
目　　的	自主運動の場を提供し、市民の健康増進を図ることを目的としています。				
事業内容	社会体育施設の管理・運営・整備を行いました。（３８施設）				
H２６年度の課題と取組	【課題等】 統廃合対象施設、休止施設、老朽化した施設等の方向性を決定するために、判断材料となる修繕費用等の資料整理を行うことが課題です。 【課題等への取組】 施設利用者の集計及び老朽化した施設の修繕を行うとともに、受付方法等、ソフト面の検討を重ね、利用者の利便性の向上に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 体育施設の管理・運営を行うことは、市民の健康増進、スポーツ活動の拠点施設として、そして、スポーツによる多くの交流人口を生み出すものとして必要性の高い事業です。 課題である施設の方向性については、施設の休廃止は、利用者の利便性との兼ね合い及び施設改修は、費用が高額であることから引き続き検討する必要があります。				
第２次教育 アクションプランの まとめ	利用者数の指標については、概ね目標を達成しました。 今後も各施設の適切な補修・改修を行いながら、運動の場を提供し、市民の健康増進を図っていきます。				
第３次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	市民のニーズに応じた、より快適なスポーツ活動の場を提供することを目的とし、引き続き、老朽化した施設の管理について検討していきます。				
『評価委員の意見』 ・嘉穂総合体育館の駐車場の整備をお願いします。 ・嘉穂総合体育館の卓球台が、嘉麻市総合体育大会、嘉麻市オープンラージボール卓球大会開催時には、どうしても不足しています。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(　A　)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(3)スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	[5 6] スポーツ大会支援事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：6, 7 4 8千円 決算：6, 6 5 3千円)				
目 的	各種大会及び団体を支援することで、スポーツの振興及び交流人口の増加を図ることを目的としています。				
事業内容	各種大会における補助金交付及び運営補助、並びに自主運営を行う嘉麻市体育協会への補助金交付を行っています。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 各種大会のスムーズな運営のため、側面的な支援が必要です。 【課題等への取組】 補助団体とのきめ細やかな協議を継続します。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 市内外からの集客が見込まれる大会を支援することは、交流人口の増加、ひいては地域の活性化につながります。しかし、年々参加者が減少傾向にあるため、対策が必要です。 体育協会については、自主的に加盟団体の育成や市民総合体育大会の運営等を担っていることから、事業の効率性は高いと考えます。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	市民向けの大会については、市民の健康増進の一翼を担い、スポーツに親しむ絶好の機会となっているものの、市内外の方を対象とする大会は、参加が減少傾向にある等課題も見受けられます。交流人口を生み出す要の大会のため、今後、嘉麻市ならではの付加価値のあるものにしていく必要があります。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	現在行っている大会は、「競技スポーツ推進事業」として展開します。その中でも、市内外から集客が見込まれる大会については、「スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援」としても継続し、交流人口の増加を図ります。				
『評価委員の意見』 ・嘉麻市の周知が足りないのではないかと思います。 ・こういった事業で、嘉麻市に来る人が多くなることを願います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

(4)スポーツ大会の誘致

事業名 (予算・決算)	[5 7] スポーツ大会誘致事業（スポーツ推進課：施設管理運営係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目 的	九州大会、県大会等を誘致し交流人口を創出することで、地域に経済効果と住民に誇りをもたらします。				
事業内容	各種団体等へはたらきかけ、県大会レベル以上の大会を嘉麻市で開催します。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 地元宿泊施設及び飲食店との連携した取組みが必要です。 【課題等への取組】 地元宿泊による合宿誘致やスポーツイベント時に、産業振興課と連携して弁当の斡旋や道の駅うすい、カッホー馬古屏、障がい者施設等による特産品の物品販売を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 スポーツイベントの開催や大会などの誘致を行うことによって、市民に「みる」スポーツの楽しさを提供し、スポーツへの関心、理解を深めスポーツ参加の契機ともなる役割を果たします。また、スポーツ施設を活用し、市内の宿泊施設と連携したスポーツ合宿を誘致することで、地域に経済波及効果をもたらし、スポーツを通じた地域づくり、地域の活性化が図られます。プロバスケットボールbjリーグ（開幕戦、第3戦）、フットサル九州リーグ、九州インカレバスケットボール、バドミントン合宿等を誘致しました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	九州大会及び県大会レベルのスポーツ大会の誘致を推進し、市民のスポーツ観戦機会の拡充と交流人口の増加に繋がりました。				
第3次教育 アクションプランへ の方向性と 課題	スポーツに関係する多くの人が嘉麻市を訪れ、スポーツを行い、観るとともに地域の人々と交流し、本市の豊富な自然環境と環境資源に触れ、親しんで帰ってもらうことで、地域活性化につながることを目的とします。関係機関との連携を強化して、特産品販売などの場を増やすことが今後の課題です。				
『評価委員の意見』 ・ 昨年は宿泊できないのでは？と話をしたが、今年は100名の宿泊が出来たと聞き、さらに広がるのではないかと期待しています。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(1)学校教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	【58】人権・同和教育推進事業（学校教育課：教務係／指導係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。				
事業内容	学校における人権教育の指導の充実を図ります。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 人権課題の解決に向け、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動をとることができるよう、組織的・継続的な人権教育の推進体制を確立する必要があります。 【課題等への取組】 児童生徒の実態を把握し、全教職員の共通理解に基づいて、共通実践を進めていくとともに、教職員の意識の変容を図る取組みを推進しました。また、児童生徒が自らの問題として捉えることができるように、参加体験型の学習方法を推奨してきました。さらに、家庭・地域・関係機関等との連携を図るよう指導しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 市内全教職員による人権・同和教育研修会を実施し、現在の子どもたちを取り巻く状況についての学習を行いました。また、教育活動全体を通じて、人権感覚の定着の取組みを行う意識も高まり、様々な状況下で、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動が多く見られるようになりました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	各学校においても、人権感覚を身に付けさせる取組みを推進していきますが、単なる知識に止まらず、より児童生徒に主体的な学習を可能にするために家庭・地域・関係機関の人々をはじめ多くの人々と連携をとり、児童生徒の発達の段階に応じた系統的な取組みが推進されるようになってきました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	人権課題の解決に向け、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動をとることができるよう、人権教育の推進を図っていく必要があります。そのためにも、校内研修の位置づけが必要です。				
『評価委員の意見』 ・世界的視野が必要になってくるのではないかと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	【59】人権学習推進事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：2,343千円 決算：2,338千円)				
目 的	同和問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、H I V感染者など、人権尊重の社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するために、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・同和问题研修会を実施し、また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。				
事業内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・同和问题研修会の開催を推進し、人権・同和問題に関する意識の向上を図ります。				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 平成 26 年度からは、嘉麻市独自の企業研修を行う必要があるため、商工会議所等の関係機関や関係各課と連携しながら、研修内容の充実を図る必要があります。 【課題等への取組】 市商工会議所及び商工会等と連携して、加入事業所及び誘致企業等を対象に、矢野大和氏を講師に招聘し、事業主人権・同和问题研修会を開催しました。 また、行政区長会においては、行政区での人権研修会開催を依頼しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 人権教育・啓発については、行政が取り組む人権施策の普及はもちろんのこと、地域住民の理解と協力を得ることが大切です。そのため、市民一人ひとりが、人権問題についての正しい認識と理解を深め、「差別をしない」から「差別をさせない」との意識が日常生活の行動等に確実に根付くよう啓発を推進し、住民の人権意識が向上するよう努めています。また、地域・企業・団体・サークル等個別的な研修会を数多く開催し、住民の人権意識の向上を図りました。 行政区や各種団体等での研修会の実施回数は、平成 25 年度 8 回から平成 26 年度 19 回に増加しました。				
第 2 次教育 アクションプランの まとめ	人権・同和研修会への参加により、人権問題についての正しい認識と理解が深まり、日常生活においても差別への気づきにつながっています。しかしながら、研修会は行政区や各種団体等の希望制により開催しているため、開催希望が少なく、また固定化している状況であり、継続して研修会の周知が必要です。				
第 3 次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、人権尊重の社会の実現に向け、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）と連携し、継続して社会教育における人権学習の推進に努めます。また、引き続き関係各課と連携し、研修会を実施したことがない地域・企業・団体等への働きかけが必要です。				
『評価委員の意見』 ・行政が行っている審議会、協議会等でも、学習会等を計画しても良いのではないかと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	[60] 解放子ども会育成事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：7, 507千円 決算：6, 995千円)				
目 的	解放子ども会を開催し、学級生一人ひとりが、人権問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します。また、合宿研修会を開催し、小・中学生が寝食、学習、野外体験活動を共にすることで、連携や交流を促進します。				
事業内容	稲築・碓井地区において、解放子ども会を開催し、人権・同和問題についての学習を行っています。また、嘉麻市解放子ども会として、合宿研修会や発表会等に取り組んでいます。 (1) 解放子ども会の開催（開講式を含む。） (2) 解放子ども会合宿研修会の開催 (3) 解放子ども会社会見学会の開催 (4) 解放子ども会フィールドワークの開催 (5) 解放子ども会発表会の開催				
H26年度の課題と取組	【課題等】 保護者の意識の変化もあり、解放子ども会に参加する児童生徒の数が減少しており、参加者数を増やすための取組みが課題となっています。 【課題等への取組】 解放子ども会指導者連絡協議会等で、参加者を増やすための取組み等を協議しました。個人情報の関係もあり、新規参加者の把握が厳しい状況の中で、地区指導者や参加している児童生徒の保護者から、解放子ども会のお知らせと参加の声掛け等を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 合宿研修会の実施は、小・中学生が寝食、学習、野外体験活動を共にすることで、連携や交流を深め自主性を深めるなど、学び得ることは多く事業効果も高いと思われます。また、社会見学やフィールドワークを行い、他地域の文化や歴史にふれ、差別の現状、人権・平和の大切さを学ぶ場としています。解放子ども会発表会は、1年間の総括を行いながら、次年度の学習につなげる振り返りの場としています。				
第2次教育アクションプランのまとめ	地域ごとに実施していた解放子ども会を嘉麻市解放子ども会に統一し、合宿研修会や発表会に一体となって取り組んだ結果、地域を越えた連携や交流が深まるとともに、差別の現状や人権・平和の大切さを学ぶことができました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	解放子ども会を開催し、人権学習等を行うことにより、一人ひとりが人権問題について正しい認識と理解を深め、差別を見抜き、差別に立ち向かえる子どもの育成を図ります。また、解放子ども会の卒業生が活動をサポートするなど、地域と一体となった活動を行い、地域・家庭との連携を図ります。解放子ども会に参加する児童生徒を増やす取組みは、継続して行う必要があります。				
『評価委員の意見』 ・保護者への人権教育も同時に行ってもらいたいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算・決算)	[6 1] 解放学級育成事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：1, 552千円 決算：1, 265千円)				
目 的	解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、解放学級生及び識字学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解を深める事業を推進します。				
事業内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級・識字学級を開催し、人権・同和問題についての学習を行っています。 (1) 解放学級等合同開講式の開催 (2) 解放学級・識字学級の開催 (3) 解放学級等合同学習会の開催				
H 2 6 年度 の課題と 取組	【課題等】 識字学級の参加者はニューカマー（外国人）が多くなっており、今後の識字学級の運営について、検討が必要です。 【課題等への取組】 識字学級生を満足に学校教育を受けることができなかった人のグループと、ニューカマーの習熟度に合わせた2グループの計3グループに分け、各グループが希望する内容に合わせた学習を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 解放学級等を開催することで、学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解を、より深めることが出来ました。さらに、地域住民・団体との交流会を開催することで、お互いの理解と心のつながりを深め、思いやりの心等を養うことができ事業効果も高いと思われます。若年層への参加を呼びかけましたが、参加者が少ない状況であり、今後も呼びかけを続けていきます。また、識字学級については、グループ分けにより、それぞれのグループのニーズに合わせた学習を行うことができるようになりました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	解放学級では、同和問題をはじめとする様々な差別の解消に向けて、地域の住民が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、また識字学級では、日常生活での文字の読み書きが不自由している人や、在日外国人の学習を行うことにより、お互いが学びあい、思いやりの心を養い、人権問題に対する認識と理解をより深めることができました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と 課題	人権問題について、更なる正しい認識と理解を深めるため、同和問題をはじめとする様々な差別の解消に向けて、地域住民の自主的・主体的な学習活動を学校と協力してサポートするとともに、識字学級の開催により、文字の読み書き学習を支援します。解放学級は参加者の高齢化と固定化により、また識字学級は在日外国人の参加が多くなっていることにより、運営方法等検討が必要です。				
『評価委員の意見』 ・ 在日外国人の参加が多くなり、今後の識字学級の運営についての検討が必要だと思います。 ・ 学級生が少ないという部分を増やすというのは、今の段階では無理だと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(1)美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[62] 文化芸術活動推進事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目的	美術団体の主体的な活動の支援や、文化芸術活動の推進を図るとともに、創作展示活動の場の提供及び子どもたちが感性を磨き、考える力、表現力などを学ぶ芸術鑑賞の機会の充実を図ります。				
事業内容	美術団体など主体的な活動を行う団体と連携協力を図り、市の文化団体などの展示活動への協力、支援を行います。 また、サークル等のアトリエでの創作活動を支援するとともに、子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供します。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 学校が鑑賞での活用を計画できるように、引き続き企画展等の案内を行い周知を図るとともに、来館が難しい学校については、出張美術館などで鑑賞の機会を提供する必要があります。 【課題等への取組】 学校が鑑賞での活用を計画できるように、美術館の利用の仕方を記載したチラシを作成し、校長会で説明を行いました。 展示室5については、嘉麻市文化協会など6団体による展覧会などの活用がありました。市が共催している展覧会については、展示方法等についてアドバイスを行いました。 また、6団体が継続してアトリエでの学習活動を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 市文化協会など関係団体や教育委員会分室と連携して、展示活動への協力、支援を行いました。 アトリエは、年間を通して学びの場として活用が図られています。 市内小・中学校13校中5校の美術館活用がありました。 市子育て支援センター及び市社会福祉協議会事業での活用がありました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	市文化協会など主体的な活動を支援するとともに文化芸術活動を推進し、また、人々の創作展示活動の場を提供・支援しながら、学校とも連携し、子どもたちが感性を磨き、考える力、表現力などを学ぶ芸術鑑賞の充実を図りました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	市文化協会などの関係団体などと連携し、展示室での展示活動への協力や支援を行うとともに、市民アトリエでの主体的、自主的な創作活動の支援を行い、学校等と連携して、子どもたちが感性を磨き、考える力、表現力などを学ぶ芸術鑑賞の支援や、学校が鑑賞での活用を計画できるように、引き続き企画展等の案内を行い周知を図る必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(1)美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	【63】美術館運営管理事業(生涯学習課：美術館係) (予算：41,852千円 決算：39,948千円)				
目的	市民が文化芸術活動、芸術鑑賞及び憩いの場として、美術館及び公園を快適かつ安心して利用できるよう施設等の運営管理を行います。				
事業内容	美術館及び公園の維持管理を図るとともに、適切な環境の中で収蔵、展示作品の保存管理を行います。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 経年劣化による建物及び設備の修理が予想されます。また、美術館の展示照明切替えについて検討する必要があります。 【課題等への取組】 消防設備取替工事及び重量シャッター障害物検知装置増設工事により、施設の安全性の向上を図ることができました。 スポットライト用LED器具30個、LED電球80個を購入しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 美術館内の案内板（サイン）を設置したことにより、館内の展示室などの配置が明確になりました。 碓井琴平文化館設置の不活性ガス（二酸化炭素）消火設備及び非常用放送設備の取替えを行い、機能維持と安全性の向上を図りました。 ホームページや広報などで、いち早く情報提供ができました。 筑豊美術館ネットワークで連携して、事業を実施することができました。				
第2次教育 アクションプランの まとめ	市民が文化芸術の活動や芸術鑑賞の場として、快適かつ安心して利用・活用することができるよう学びの環境の維持管理と整備に努めました。また、近隣の美術館との連携を図り、情報交換や連携事業などにより、より質の高い館運営に努めました。				
第3次教育 アクションプランへの 方向性と課題	美術館の維持管理に努めるとともに、利用者が快適に利用できる環境の整備及び展示環境の充実を図ります。 ホームページやリーフレット等を活用して、情報発信に努めます。 近隣美術館と情報交換及び連携を図ります。 経年劣化による建物及び設備の修理が予想されます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(1)美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[64] 企画展事業（生涯学習課：美術館係） (予算：12,376千円 決算：12,322千円)				
目的	著名な作家や郷土ゆかりの作家の作品展示及び優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することにより、こころ豊かな感性を育み文化の向上を図ります。				
事業内容	館蔵品展、郷土作家展、夏季企画展など6展を開催しました。 「春のコレクション展2014」 4月1日～4月6日（6日間） 「木村定男の世界展」 7月12日～8月31日（44日間） 「織田廣喜生誕百周年記念展」 9月13日～10月19日（32日間） 「第70回福岡県美術展覧会筑豊展」 10月28日～11月16日（18日間） 「香椎敬介展」 12月6日～2月1日（43日間） 「春のコレクション展2015」 3月7日～3月31日（21日間）				
H26年度の課題と取組	【課題等】 嘉飯山の画家たち展は、美術館運営協議会において出品依頼作家の選考に透明性を持たせるよう意見をいただいております、選考方法等の検討が必要です。 【課題等への取組】 平成27年度の嘉飯山の画家たち展開催に向け、平成26年度中に外部有識者からの意見公聴による選考を実施する予定にしておりましたが、平成27年度当初予算に同事業を盛り込むことが出来ず、同展開催の前年度に選考を実施することとしたため、平成26年度においては実施していません。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 木村定男の世界展、織田廣喜生誕百周年記念展では、作品展示のほか、講演会や鉄道写真展、鉄道模型を走らせるイベントなど関連事業を実施しました。香椎敬介展では、市内美術団体協力の下で展示作業などを実施しました。県展筑豊展では、各部門の県美術協会員の協議及び展示指導により、充実した展示構成となりました。常設展示室内でジャズコンサートを実施し、市民に美術と音楽の芸術鑑賞の場を提供することができました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	著名な作家や郷土ゆかりの作家の作品を展示、優れた作品鑑賞の場を提供し、豊かな感性を育み、文化向上を図るとともに、子どもたちの感じる心と表現力を養いました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	織田廣喜や郷土の作家の調査、研究を継続的におこない、地域の文化の向上を目指します。このことにおいて、継続的な調査、研究をおこなうことが必要です。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(1)美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	〔65〕美術館ボランティア事業（生涯学習課：美術館係） (予算：個別予算なし 決算：個別予算なし)				
目的	美術館ボランティアについては、子どもたちの美術活動の充実と、美術館の活動に関わる人材の育成を図ります。				
事業内容	ボランティア会議（年2回）、小学生対象の講座で講師の補助、事業サポートを行いました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 継続して活動するボランティアに加え、新たなボランティアの募集を行い、子どもたちへの学習支援を通じて資質の向上を図ります。 【課題等への取組】 広報活動により、3名の新規ボランティア登録があり、登録者は計11名となりました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 講師による実技指導を事前に受けてもらうことにより、講座内でスムーズに子どもたちの創作活動の手助けができました。				
第2次教育 アクションプラン のまとめ	美術館ボランティアについては、美術館活動などに関心のある方々をつなぎ、ともに活動を支援する人材を養成し、美術館の活動に関わる人材の育成やボランティア活動により施設の活用と美術館活動の充実を図りました。				
第3次教育 アクションプラン への方向性 と課題	美術館ボランティアは、ボランティア会議等を行い、活動内容の明確化とボランティア相互の連携を図り、円滑な講座運営に繋がります。 継続して活動するボランティアに加え、新たなボランティアの募集を行う必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(1)美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[66] 美術教育普及事業（生涯学習課：美術館係） (予算：555千円 決算：549千円)				
目的	美術教育普及については、楽しみながら創作活動を行う機会や場の提供を行い芸術への興味を深め豊かな感性と表現力を育むことにより、美術教育の充実を図ります。				
事業内容	5講座を開設しました。(大人：2講座、子ども：3講座) ・写真講座（前期・後期）16回 18歳以上 受講者 27名 ・大人の体験講座 3回 高校生以上 受講者 10名 ・ジュニア美術学科 12回 小学校1・2年生 受講者 29名 ・オダビアートクラブ 5回 小学生 受講者 153名 ・わくわくアトリエクラブ 2回 4～8歳までの子どもとその保護者 受講者 16名				
H26年度の課題と取組	【課題等】 より充実した美術教育普及となるよう、講座の開催日や運営方法について検討します。 【課題等への取組】 回数削減、曜日変更など事業の開催日程を見直した結果、定員を超える申し込みがありました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 道具や物を大切に作る心や、風景画や人物を描くことにより、観察力や表現力が身につきました。自然の中で創作活動を行ったり、家族と一緒に創作活動を行うなど学校では体験できない創造的な立体創作を行うことができました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	美術教育普及については、市民に学びあう機会や場を提供し、美術学習活動や学校の美術教育を支援し、芸術に親しみながら心豊かな感性を育み、子どもたちに美術の大切さや楽しさを伝え、表現力などを育みました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	様々な分野の芸術を体験する機会を提供し、創作活動を行う中で芸術への興味を深め、豊かな感性と表現力を磨き心豊かな人材を育みます。 より充実した美術教育普及となるよう、講座の開催日や運営方法について検討する必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(2)文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	〔67〕 歴史民俗教育普及事業（生涯学習課：文化財係） (予算：1, 255千円 決算：1, 196千円)				
目 的	様々な文化財や収蔵資料などを活用し、地域の歴史や文化などへの理解と関心を深めるとともに、文化財の保護、継承の大切さについて周知を図ります。				
事業内容	・昭和40年6月1日「50回忌を迎える男たちへ」展 5月31日～6月30日 ・語り、伝える 戦争の話 8月2日 ・歴史講演会「軍師官兵衛と九州征伐」 11月22日 ・朗読劇&音楽劇「青い目の人形によせて」 12月5日 ・沖出古墳の同時公開（春・秋） 4月19日・20日 10月18日・19日 ・団体、学校等への学習支援 4月～3月 ・平和祈念館リーフレット、嘉麻の遺跡ブックレット（沖出古墳）の作成など				
H26年度の課題と取組	【課題等】 企画展など事業の周知を図るとともに学習支援に努めます。 【課題等への取組】 ・事業について広報紙、ホームページ、ポスター等を活用し周知を図りました。 ・青い目の人形を題材に嘉穂小4年生と音楽&朗読劇を開催しました。 ・沖出古墳や平和祈念館（平和の火）についてリーフレット、ブックレットを作成し、ブックレットは小学校、図書館へも配布しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・昭和40年6月1日「50回忌を迎える男たちへ」には625名（市外274人）の来館者があり、山野鉦および事故について学ぶ機会を提供できました。 ・「青い目の人形によせて」の朗読&音楽劇は、嘉穂小3、5、6年生及び保護者などで夢サイトの文化ホールが満席となり、4年生の自信に満ち溢れた態度は素晴らしく、会場が一体となり大変好評でした。 ・「語り、伝える 戦争の話」は、ポスター貼付などで周知を図ったが、参加者が少なく、更なる周知を図る必要があります。 ・リーフレット、ブックレットを作成し、周知と学びを深めることが出来ました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	碓井平和祈念館や郷土館活用した企画展や歴史講演会、沖出古墳の一般公開など、郷土の文化財や収蔵資料を活用し、小学校の授業支援など様々な取組みを通して、人々の学びを支援することが出来ました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	継続して企画展や歴史講演会、沖出古墳の公開などを実施するとともに、郷土への誇りや愛着を培うため、学校や生涯学習で活用できる資料の作成や関係課係と連携し、郷土の歴史や文化を対外的にもPRし、まちづくりを支援します。				
『評価委員の意見』 ・八丁トンネルの完成により、交通量も増えると思います。嘉麻市の豊かな歴史、民俗を宣伝してください。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(2)文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	【68】文化財保護事業（生涯学習課：文化財係） (予算：12,265千円 決算：11,887千円)				
目的	指定文化財の維持管理に努め保護と継承を図るとともに、施設等の維持管理に努めます。また、開発事業者との事前審査・調整、埋蔵文化財出土品の整理などを行います。				
事業内容	・指定文化財の維持管理および補助金交付と施設等の維持管理を行いました。 ・公共事業や一般開発事業にともなう埋蔵文化財の事前審査を行い、連絡調整を図りました。 ・市指定の千手小学校のケヤキの剪定と三郎丸の大クスの樹木診断を行いました。 ・寒北斗酒造の国登録有形文化財への登録の事務処理を支援しました。 ・発掘出土品の再整理を行いました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 旧千手小学校内にある「千手小学校のケヤキ」（市天然記念物）の剪定を行います。 「次郎太郎古墳」出土品の再整理を行います。 【課題等への取組】 ・強風から千手小学校のケヤキを保護するため、剪定を行いました。 ・「次郎太郎古墳」の出土品の再整理を行い、活用を図ります。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・草刈や補助金交付など指定文化財の維持管理、保存を図ることが出来ました。 ・開発業者等の協力により99件の事前審査（内4件の立会調査）を行うなど円滑な事前調整を行いました。 ・「千手小学校のケヤキ」について生い茂っていた枝の剪定等を行い、三郎丸の大クスについては樹木診断を実施するなど、文化財の保護、保存を図りました。 ・平成25年度より県の指導を受け進めてきた寒北斗酒造株式会社建物の登録については、店舗兼主屋、安政の蔵、仕込蔵が、国登録有形文化財（建造物）へ登録されました。 ・今年度は「次郎太郎古墳」（漆生）の出土品の再整理を行うことが出来ました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	継続して指定文化財の保護、伝承、活用を図ることが出来ました。また、沖出古墳、次郎太郎古墳の出土品の再整理を行い、合わせて図面等のデータ化やブックレットを作成するなど、資料の保存と周知にも努めました。寒北斗酒造の建物の1部が国登録有形文化財に登録されるなど新たな文化財が加わりました。 事前審査は計316件に及び、円滑な調整と埋蔵文化財保護に努めました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	地域、市民の「たから」として後世に受け継がれるよう、継続して指定文化財の保護、継承と活用を図るとともに、市内に残る多様な文化財の保護に努めます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

○ 重要課題7 市民文化の創造

(2)文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	【69】歴史民俗資料展示・保管施設の管理活用事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：3,892千円 決算：3,884千円)				
目的	資料展示・保管施設の中核施設である碓井郷土館、碓井平和祈念館の整備と活用を図ります。また、収蔵資料の整理を行い、内容把握と活用を図ります。				
事業内容	碓井郷土館収蔵資料の整理と台帳作成（データ化）を行いました。 碓井平和祈念館のコーナー展示を一部見直し、新たな資料を展示しました。 碓井郷土館の交換可能な照明をLEDに取替えました。				
H26年度の課題と取組	【課題等】 資料の整理とデータ化を継続します。 資料展示施設の活用を図ります。 【課題等への取組】 ・碓井郷土館収蔵資料約1250点の整理を行いデータ化に努めました。 ・碓井平和祈念館を活用し企画展「50回忌を迎える男たちへ」や常設展示の見直しを行い、郷土館でも軍師官兵衛に合わせ、常設展示に臼井氏と黒田家に関する資料を加え展示しました。 ・施設は授業でも活用され、実物資料を見ながら学びを深めることが出来ました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・収蔵資料の整理、データ化により点数、内容の把握ができ、活用を図ることが出来るようになりました。 ・平和祈念館および郷土館を活用し、企画展などを開催し、郷土の歴史の一端を取上げ、学びの機会を提供することができ、他の施設も小学校の学習の場として活用されました。 ・文化財保護審議会においても施設や収蔵資料の活用について意見をいただきました。				
第2次教育アクションプランのまとめ	継続した収蔵資料の整理、台帳作成（データ化）により、企画展や常設展示で資料の効果的な活用を図ることが出来ました。また、保管施設の適切な管理により、大人から子どもまで多くの人々の学びの場として活用することが出来ました。				
第3次教育アクションプランへの方向性と課題	施設の効率的な運営と活用が出来るように資料の保管方法や施設について検討し、郷土の歴史・文化のPRに貢献します。また、収蔵資料の整理と台帳整備（データ化）と管理に努めます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待通り、B：概ね期待通り、C：課題あり、D：事業の見直し要

5. 全体評価結果

(1) 全体評価結果

全体評価結果については、事務局の自己評価と評価委員の意見をふまえた教育委員会の評価結果は下記のとおりとなりました。(全66事業)

	前年度教育委員会評価		教育委員会評価
A：期待通り	33事業（47.8%）	⇒	35事業（53.0%）
B：概ね期待通り	36事業（52.2%）	⇒	31事業（47.0%）
C：課題あり	0事業（0.0%）	⇒	0事業（0.0%）
D：事業の見直し要	0事業（0.0%）	⇒	0事業（0.0%）

今回の評価の方法は、昨年度と同様に、目的達成度の観点から総合的に評価を行いました。また、第2次教育アクションプランの最終年度としてのまとめと、第3次嘉麻市教育アクションプランにおける課題についても併せて検討いただきました。第三者評価を含んだこれらの評価手法については、客観的な評価が実施できるように、引き続き改善に努めてまいります。

実施事業の全体的な年度比較では、「A評価」が47.8%から53.0%（5.2ポイント増）へ、概ね期待通りの「B評価」が52.2%から47.0%（5.2ポイント減）へ、課題ありの「C評価」及び事業の見直し要の「D評価」の事業は、昨年同様に0%で、全体の評価傾向としては、向上していると考えております。

これは、事業を計画する際に、前年度の点検評価による課題等を十分に考慮し、事前調査や検討を行った結果であると思料します。

(2) 重要課題ごとの評価及び課題

○ 重要課題1「少人数指導等による学力向上」

児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行う「少人数指導推進事業」の取組みにより、小学校においては、NRT学力テストにおける平均偏差値は、0.8ポイント上昇し、昨年度に引き続き、全国平均偏差値50ポイントを超えました。

また、全国学力・学習状況調査においては、全国平均正答率を上回る学校は、小学校で3校、中学校では1校あり、一定の成果をあげることができました。しかしながら、全国平均及び県平均を下回っている学校もあります。

引き続き、学力検査等の結果を詳細に分析し、さらなる学力向上の取組みを推進する必要があります。

○ 重要課題2「個性又は能力を育成する学校教育の充実」

「特別支援教育総合推進事業」や「補助教員配置事業」については、個別に支援を要する児童生徒に対し、適切な支援が図られています。

また、「情報教育推進事業」については、ＩＣＴを活用した授業改善や増加するネット犯罪等から児童生徒を守るためにインターネットやLINEなどのSNS（ソーシャルネットサービス）の適切な利用方法の指導を充実する必要があります。

○ 重要課題３「豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進」

不登校問題等の解決の取組みとして、「教育相談推進事業」や「学校支援相談員（旧：ひきこもり訪問指導員配置事業）」を実施し、不登校傾向の児童生徒に対する早期対応や不登校の解消、改善に積極的に取組み、不登校児童生徒数は減少傾向にあります。今後もこの事業を継続して実施し、不登校問題の解消に努める必要があります。

また、「適応指導教室（れすとぴあ）推進事業」では、学校へ復帰した生徒や学校への復帰はできなかったものの、高校へ進学した生徒もあり、不登校児童生徒にとっては、必要な事業であり、今後も継続して事業を実施する必要があります。

○ 重要課題４「生涯学習の実現を目指す社会教育の推進」

「ボランティア人材バンク事業」では、派遣回数や対象者数の増加、「図書館ボランティア養成事業」で参加者の６割が新規にボランティアを開始する等、地域の教育力向上において効果が表れてきています。引き続き、新たな人材の発掘と養成に努めます。

社会教育関係団体の育成、公民館活動の活性化や青少年育成等、全てにおいて地域住民との連携が大切です。

各地域性を尊重しながら、地域コミュニティの再構築や指導者及び後継者の育成、各団体間の連携を推進し、さらなる地域力向上を図る必要があります。

○ 重要課題５「体力及び運動能力向上の推進」

「プロジェクトＫ（旧：ゴールデンエイジプロジェクト）」は、私立幼稚園２園、市立小学校４校が新たに導入し、広がりを見せております。また、子どもたちの学力をつけるとい点においても市内に広がっていくことを期待するという評価も受けております。

一方、指導者が不足していることから、「コーチングスキルアップ」において指導者の養成、確保に向けた取組みが必要となっています。

引き続き、体系的なコーディネーショントレーニングの普及と定着を図ります。

○ 重要課題６「人権尊重精神を育成する教育の推進」

市民一人ひとりが、人権問題について正しい認識と理解を深め、日常生活の行動等に確実に根付くよう啓発を推進し、住民の意識向上に努めました。「人権学習推進事業」においては、行政区や各種団体等での研修会の実施回数が平成２５年度の８回から１９回に増加しました。

引き続き、啓発事業を実施し、市民の人権意識の高揚を図ります。

○ 重要課題７「市民文化の創造」

美術館事業については、「文化芸術活動推進事業」において学校と連携し、子どもたちが感性を磨き、考える力、表現力などを学ぶ芸術活動の充実を図るとともに、常設展

示室内でジャズコンサートを実施するなど、鑑賞機会の充実に努めました。

文化財事業については、千手小学校のケヤキの保護、寒北斗酒造の国登録有形文化財への登録、次郎太郎古墳の出土品の再整理を行うことができました。引き続き、市内に点在する資料の保管方法が課題です。

(3) おわりに

今回点検した教育委員会の事業は、「第2次嘉麻市教育アクションプラン」の具体的な数値目標と、それに対応した行動計画として策定しており、計画的かつ効率的に諸施策を着実に進めてきました。今回評価を受けたなかでの課題等を平成27年度からの「第3次嘉麻市教育アクションプラン」に引き継ぎ、施策を実施していきます。

また、市民の点検評価委員のみなさまからは評価に対する指摘、改善策、貴重な意見等を頂きました。これらの貴重な意見を事業に活用し、今後の嘉麻市教育行政の発展に役立てていきたいと思っております。

最後に、今回点検評価に参加・ご尽力くださいました委員の皆様に心よりお礼を申し上げます、点検・評価報告書のまとめとさせていただきます。

《 資 料 》

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成 21 年嘉麻市教育委員会要綱第 6 号]

[平成 23 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 24 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 26 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 26 年嘉麻市教育委員会要綱第 6 号]

[平成 27 年嘉麻市教育委員会要綱第 5 号]

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条及び嘉麻市教育基本条例（平成 22 年嘉麻市条例第 16 号。以下「条例」という。）第 7 条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第 2 条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

(1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。

(2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第 3 条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置する。

3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第 4 条 評価委員は、10 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (１) 嘉麻市議会議員
 - (２) 嘉麻市PTA連合会委員
 - (３) 嘉麻市社会教育委員
 - (４) 嘉麻市公民館運営審議会委員
 - (５) 嘉麻市立図書館協議会委員
 - (６) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員
 - (７) 嘉麻市スポーツ推進委員
 - (８) 嘉麻市文化財保護審議会委員
 - (９) その他教育委員会が適当と認める者
- (公表の方法)

第５条 教育委員会は、条例第７条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に掲げる方法で公表する。

- (１) 嘉麻市公式ホームページに掲載
 - (２) 報道機関に提供
 - (３) 教育委員会での閲覧
- (庶務)

第６条 点検評価の実施に関する庶務は、学校教育課において処理する。

(その他)

第７条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成２１年７月８日から施行する。

附 則

この要綱は、平成２３年４月５日から施行する。

附 則

この要綱は、平成２４年４月１日から適用する。

附 則

この要綱は、平成２６年４月１日から施行する。

附 則

この要綱は、平成２６年１０月１６日から施行する。

附 則

この要綱は、平成２７年４月１日から適用する。

平成２７年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿
(評価対象年度・・・平成２６年度)

(敬称略)

	団 体 名	氏 名	備考
1	嘉麻市議会	岩永 利勝	
2	嘉麻市ＰＴＡ連合会	穂坂 拓也	
3	嘉麻市社会教育委員の会	井上 友征	
4	嘉麻市公民館運営審議会	松岡 敏彦	
5	嘉麻市立図書館協議会	田中 早苗	
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会	堀 洋子	
7	嘉麻市スポーツ推進委員	山方 国和	
8	嘉麻市文化財保護審議会	香月 靖晴	
9	その他教育委員会が適当と認める者	大屋 信一	

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書
(平成26年度事業分)

発 行 嘉麻市教育委員会 学校教育課
〒820-0392 福岡県嘉麻市大隈町7-3-3 番地
T E L 0948-57-3198

発行年月 平成27年9月